

2023 年度事業報告

公益社団法人福岡県社会福祉士会
会 長 高田 裕矢

総 括

2023 年度を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が 5 月 8 日、季節性インフルエンザと同じ「5 類」に引き下げられました。3 年余り続いたコロナ対策は、平時の体制に切り替わり、「マスク着用」「3 密回避」など、これまでの暮らしを一変させたコロナ禍は大きな区切りを迎えました。私たちが翻弄させた新型コロナウイルス感染症ではありますが、反面、デジタルトランスフォーメーション（DX）の重要性に気づくきっかけともなりました。DX は本会にとっても組織の持続的な変革を促進し、効率性や柔軟性を向上させるための戦略的アプローチと言えます。オンラインによる研修会の開催をはじめ、委員会やブロックの会議も適切なビデオ会議ツールやクラウドベースのコラボレーションツールを使用して、遠隔地からのコミュニケーションや協力を実現することができました。

このように、アフターコロナの時代に突入した 2023 年度は従来の組織運営の手法に大きな変革が求められはじめました。コロナ禍を教訓とし、急速かつ予測不能な変化に対応するため、柔軟性と適応性を重視する必要がありました。そのためには、既存の業務プロセスや組織構造にとらわれず、迅速に変化に対応できる体制を構築する取り組みの検討をスタートしています。

このような中、11 月は福岡県社会福祉士会創立 30 周年記念式典を開催いたしました。今回の創立 30 周年記念式典は、過去の功績に感謝し、未来への新たな希望と決意を抱くための場となりました。

本会は、今後も地域の社会福祉の分野で重要な役割を果たし、変化する社会のニーズに対応していく使命を担います。その使命を果たすためには、困難を乗り越え、社会的な課題に立ち向かわなければなりません。そのためには、協力し、知識を共有し、技術を向上させる必要があります。

また、2024 年の元旦には能登半島地震により、石川県を中心に甚大な被害が発生しました。本会では、これまで地震等の災害発災時は一定の期間を設けて災害義援金を募集し、福岡県共同募金会を通じて寄付を行ってききましたが、本災害を機に、いち早く見舞金を被災地に届けることを目的とし、「災害発災における見舞金支払いの手順及び判断に関する内規」を新たに整備し、迅速に見舞金を被災地に届けることができました。さらには、本会においても災害派遣福祉チーム（DWAT）に登録したチーム員が現地で活動したとの報告も受けています。

なお、2023 年度は第 2 期中期計画及びその実施計画の 3 年目でもありました。特に第 2 期計画では、職能団体として、また公益法人として果たすべきビジョンを掲げながら、基盤強化並びにソーシャルワークの専門職である社会福祉士としての専門性の向上を図り、「福岡県民の福祉の向上」を展開していくことを明示しています。2 年目では活動基盤の強化として、会のブランディングや課題解決を意識したアプローチを踏まえた広報戦略の検討を始めました。年間を通して、会の内外問わず意見を聴取し、ホームページのリニューアルを軸として発信力の強化を進めています。これら広報戦略の手段は会員活動への参加率の向上及び入会促進・退会抑制にも大きく影響するものであり、組織の長期的・持続的な成長のための活動であると認識しています。これについては、ソーシャルワークの専門職である社会福祉士の職能団体である本会が、会員である社会福祉士の資質向上、また社会的な地位の向上にむけた取り組みをこれまで以上に果たしていくために必要不可欠なものと考えています。

今後も、支部化を含む本会の未来を見据えた取り組みや課題が山積していますが、個々の社会福祉士が自己実現に必要な魅力ある職能団体として機能し続けることを維持し、社会福祉士の専門職としての自立を支え、その専門性の証として後ろ盾となることが本会の使命と言えます。

最後に 2023 年度の重点施策ごとに事業を総括いたします。

1 ソーシャルワークの推進

社会福祉に関する啓発活動の推進および社会福祉士の役割に関する啓発を目的として、以下の事業に取り組んでいます。

(1) 県民対象の福祉セミナー並びに県民向け出前講座の開催

例年、福岡県民向けセミナーについては広報委員会が中心となり、今回は「役にたたなくてもいい場所 ソーシャルワークアウトリーチのフィールドとしてのスナック」をテーマとし、フィッシュ明子氏を招いて開催しました。アフターコロナ時代の柔軟な学びの場としてオンライン開催し、会員含む多くの県民の方々に参加いただきました。県民向け出前講座については1件のみの開催となりましたが、充実した内容であり好評を得ました。

(2) ソーシャルワーカーデイにおける啓発活動の実施

例年行われているソーシャルワーカーデイにおける啓発活動の取り組みは、社会福祉士や精神保健福祉士などのソーシャルワーカーの活動を推進し普及するための活動です。しかし、2023年度に関しては、十分な検討の機会が得られず実施できませんでした。しかしながら、現在、県内ソーシャルワーカー三団体で2024年度の取り組みに向けて、啓発のための冊子発行などの検討を始めています。

(3) 権利擁護活動の推進（成年後見、虐待対応、司法福祉他）

本会の権利擁護活動においては、ばあとなあ福岡の活動実績のうち、家裁推薦案件として2023年度も法人、個人合わせて240件を超える新規受任の推薦依頼がありました。これら家裁からの推薦依頼に加え、県内各地に設置されている「中核機関」からの推薦案件が激増し、候補者調整が難しく「候補者なし」として回答する案件も多く発生しています。そのような中、後見活動の実務を担う受任者の質の担保として名簿登録者間の顔の見える基盤づくりの促進を継続して取り組んできたと共に、事務局員を増員し、法人後見の業務執行者を担うという新たな取り組みを検討しています。さらには法人後見による公的関与のモデル事業についても検討を開始し、行政機関と協議を重ねています。また高齢者・障がい者虐待対応の取り組みについては福岡県弁護士会と協働して事業の推進を行っています。養介護施設従事者等による高齢者虐待案件の増加に伴い、ケース会議派遣依頼は増加傾向ですが、各関係者等との連携を図りながら滞りなく行うことができました。司法福祉については、2023年度に司法福祉実践研究委員会を立ち上げ、これまでと同様にアドバイザー派遣を継続すると共に、刑事司法ソーシャルワークに関する活動への周知・啓発及び刑事司法ソーシャルワーカーの人材育成及び地域ネットワークの構築のための活動を行うことができました。

(4) 成年後見人等養成促進と支援体制の強化

今年度も名簿登録者研修を開催し、新たに34名の名簿登録者の養成を行うことができました。ここ数年はコロナ禍の影響もあり名簿登録者は微増となっていますが、今後はコロナ禍前の状況に戻り、新たな成年後見活動を通じた権利擁護支援の担い手が増えていくことを期待しています。現状、名簿登録者も300名を超える状況において、支援体制の強化を図る方法の一つとして、地域支援部を中心として地域ごとの研修の開催や名簿登録者間の関係作りに努め、増加する推薦依頼に応えることができる体制整備の検討を行っています。

(5) 他機関・他部門との連携

地域連携ネットワークPJTは当初の目的を達成したため解散しましたが、家庭裁判所をはじめ、弁護士会、司法書士会並びに本会による家裁家事関係機関連絡協議会に参加し関係機関、他部門との連携に努めました。また中核機関の運営委員、各中核機関の受任調整会議委員、ケース検討会議委員、県社協体制整備アドバイザーなどには複数名の委員を推薦、派遣することで、関連した動きの中にもばあとなあ福岡として応じることができました。さらには、成年後見人届の窓口一本化について福岡市、北九州市、近郊自治体に対し上記三士会で要望活動を行いました。

2 専門性の向上

生涯研修制度の充実を図る中で、ソーシャルワークの実践基盤形成と実践活動の向上に取り組めます。

(1) 生涯研修センター協議会を中心としたオンライン研修体制の確立、及び研修サービスの普及・啓発

コロナ禍を契機として、本会においてもDXを推進し、研修をオンライン・ハイブリッド・集合と切り替えて開催する体制を確立し、6件の認定社会福祉士認証研修を実施しました。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が2類から5類へ移行しましたが、今後も医療機関や施設等では予断を許せない状況が続くことが予想されます。今後も状況に応じた研修を実施していきます。

(2) 専門分野別の認証研修の企画、実施の推進、スーパービジョン体制の確保

4月には3件の新規認証申請と1件の認証研修更新を行い、10月には1件の新規認証申請と1件の認証研修更新を専門分野別に行いました。また、スーパービジョン研修については、予定通りに受講希望者に案内し、実施しました。認定社会福祉士取得に向けた重要な研修であるため、引き続きスーパーバイザーのニーズに応えられるように体制を整えると同時に、スーパーバイザーへのフォローアップやグループスーパービジョンの実施体制作りを検討しています。

(3) 各種専門委員会におけるあり方の検討と職能団体としての専門性向上支援

生涯研修センター協議会所管の委員会では、主に認定社会福祉士制度の普及促進と認証研修の積極的推進を目指し、会員である社会福祉士の質の向上に取り組む、他分野領域別研修については、地域単位での研修実施など区分をしたうえでやっていくことを改めて確認しました。また、これらの研修を企画・運営する委員会間での情報交換と共有を積極的に行い、適切な運営を継続しています。

(4) 司法領域との連携及び実践研究の為の体制検討

司法領域との連携は、現代において多様な課題が生じているため、ソーシャルワークの専門性を裏付ける重要な取り組みとなります。今年度、本会は地域社会・多文化委員会から細分化した司法福祉実践研究委員会を立ち上げ、刑事司法ソーシャルワークに関する活動の周知・啓発など、具体的な取り組みを検討してきました。

3 活動基盤の強化

職能団体としての基盤強化と組織体制の強化を進める中で、権利擁護活動の推進を図ります。

(1) 入会促進と退会抑止への取り組み推進

2023年度には、入会促進と退会抑止を目的とした取り組みを実施しました。事務局員のアイデアもあり、入会促進と退会抑止の両方に一定の効果が見られました。引き続き、対外的な活動の場において普及啓発と入会促進に取り組むとともに、特に広報活動に注力し、会員外への情報発信力を強化することを検討しました。これらの実施は2024年度も行われますが、適切な効果測定を行い、組織率の維持と向上を図るためにも、取り組みをブラッシュアップしていく予定です。

(2) ブロック活動の促進及び支部組織の設置に向けた検討と取り組み

県単位での会員組織として大きくなることで個々の会員のニーズに応えることが難しくなっています。そのため、地域ごとの活動基盤を整備する必要があると考え、支部組織の設置に向けて検討を開始しました。支部組織の設置には、事務局体制の整備や支部化のための財政基盤の確保など、設置前に検討すべき課題が多く残っていますが、一人ひとりの会員の活動の身近な基盤づくりとして、今後も積極的に進めていきます。

（３）災害時における事業継続体制と会員支援の構築に向けた検討

大規模災害が発生した際に、チーム員を避難所などに派遣するための協定（DWAT）締結後は、ブロック単位の研修を実施し、実際の災害で役立つ知識を習得しました。また、登録者の養成研修（認証研修）を通じて、基盤の整備を図ることができました。

（４）ソーシャルワーカー関係団体との連携に関するあり方の検討と取り組み

ここ数年間、ソーシャルワーク関係団体との連携においては、コロナ禍の影響で具体的な進展が見られませんでした。2024年度のソーシャルワーカーデイにおける啓発活動を実施するため、本会及び福岡県精神保健福祉士協会、福岡県医療ソーシャルワーカー協会の三団体で2024年度の取り組みに向けて検討を始めています。また、本会の創立30周年記念式典では、他関係団体の役員の皆様にご参加いただき、連携の足掛かりを作ることができました。

（５）社会福祉士養成校等との連携に関するあり方の検討

これまで同様に、社会福祉士の養成校や大学との連携、新規入会者の獲得に向けて検討を行いました。本会会員の中には、これらの学校で勤務している方もいますので、連携協定を締結する際には彼らの協力を得ることができればと考えています。今後は、養成校向けに学生向けの出前講座など公益事業の一環として取り組んでいきます。

4 その他

会員活動支援の基盤となる本会事務局体制の強化やガバナンスの枠組みの検討を行い、2024年度の事務局再編について検討を重ねてきました。これまでは事務局業務が縦割りであることから、体調不良や退職時に適切な業務の引継ぎが行えず、一部の事務局員に多くの負担がかかるなど、多くの課題を抱えていました。このような不安定な状態を解消し、事務局体制の安定化に向けた取り組みを継続的に進めていきます。

【 公益目的事業 】

1. 地域福祉の増進に寄与するための事業（公1）

- 中分類 【1】 相談援助事業
【2】 福祉サービス第三者評価事業
【3】 社会福祉に関する調査研究・普及啓発事業
【4】 福祉人材育成事業

【1】 相談援助事業

委員会名・事業チーム名：ぱあとなあ福岡委員会 担当理事名：勝野憲司・木山淳一

2023年度事業計画	2023年度事業報告
ぱあとなあ福岡活動実績 (後見人等候補者推薦等)	①名簿登録者数 319 名 候補者名簿登録者 281 名 (受任率 88%) 受任状況 ②成年後見人候補者推薦状況 2023 年 4 月～2024 年 3 月 候補者推薦依頼件数 242 件 新規推薦件数 個人 190 件 法人 13 件 (中核機関への候補者推薦 35 件) 候補者なしでの回答件数 39 件 ③2024 年 3 月活動報告書実績 (2024 年 3 月末現在) 受任件数 個人 1,583 件 法人 42 件 未成年 4 件
ぱあとなあ運営体制整備	①名簿登録規程変更によるぱあとなあ・候補者名簿双方の 管理体制 ・更新要件未達者対応(2024 年 3 月末で 17 名) ②業務監査委員会開催 (9 月・2 月) 第 1 回：2023 年 8 月 31 日 (木) 12 名参加 報告事項：2022 年度事業報告 2023 年度事業計画 協議事項：委員会活動と事務局体制について 受任調整ガイドライン変更に関する意見募 集 第 2 回：2024 年 3 月 12 日 (火) 10 名参加 報告事項：2023 年度事業報告 2024 年度事業計画 協議事項：2023 年度苦情相談について その他 ③未成年後見体制整備 P J T 未開催 ④後見人等受任体制整備 ⇒受任調整ガイドラインの見直し (継続)

運営基盤強化	①会員派遣調整手数料徴収 ②事務局体制の強化 ・法人後見担当職員の採用
名簿登録者養成	①成年後見人材育成研修（委託）開催（4日間） 日 時：2023 年 9 月 16 日（土）オンライン研修 10 月 1 日（日）オンライン研修 10 月 14 日（土）集合研修 （リファレンス大博多ビル） 11 月 12 日（日）集合研修 （リファレンス大博多ビル） 受講者：34 名（内県外受講者 4 名） ②名簿登録研修開催（1 日間） 日 時：2023 年 12 月 16 日（土） 場 所：リファレンス大博多ビル 受講者：29 名
名簿登録者支援	①初任者支援（初回事務報告書事前チェック） 初任者支援：1 名→筑後 1 名 （定期事務報告書事前チェック） →北九州 1 名 ②継続研修開催（4 回） 第 1 回：2023 年 7 月 2 日（日）（クローバープラザ） 受講者：85 名（内一般 5 名） 第 2 回：2023 年 8 月 26 日（土）（オンライン） 受講者：141 名（内一般 9 名） 第 3 回：2023 年 10 月 1 日（日）（クローバープラザ） 受講者：47 名（内一般 4 名） 第 4 回：2023 年 12 月 9 日（土）（オンライン） 受講者：110 名（内一般 7 名） ③更新研修制度運用（受任者・候補者名簿登録者） 2023 年度未達者対応（第 1 段階：17 名） ④更新研修開催 第 1 回：2024 年 1 月 28 日（日）（クローバープラザ） 受講者：38 名 第 2 回：2024 年 2 月 17 日（土）（オンライン） 受講者：50 名
法人後見事業	受任件数 42 件（2024 年 3 月末日時点） ・今年度新規受任 13 件、終了 14 件 ・受任区分：虐待 8 件 困難 12 件 高額 20 件 若年 2 件 ①業務執行者決定（ML 及び地域支援部） ②業務執行者面談（就任時、定期報告時、6 カ月後） ③家裁への定期報告 ④家裁との事務連絡 ⑤データ管理 ⑥その他：受任調整ガイドラインの見直し
相談・普及啓発事業	①ぱあとなあ相談窓口（電話相談・来所相談） 相談件数 25 件（2024 年 3 月末日時点） ②成年後見活用講座開催（2 回） ⇒開催せず

地域支援体制 (地域支援部、法人後見部、継続研修部、人材育成部)	【北九州】 勉強会 第1回：2023年10月7日(土) 第2回：2023年11月25日(土) 第3回：2024年2月18日(日) 名簿登録者交流会 2023年8月20日(日) 合同勉強会(福岡南地区と合同) 2023年6月19日(月) 部会 第1回：2023年7月26日(水) 第2回：2023年8月20日(日) 第3回：2023年10月7日(土) 第4回：2023年11月25日(土) 第5回：2024年2月18日(日)
	【粕屋・宗像】 勉強会 2024年2月4日(日) 名簿登録者交流会 2023年8月27日(日) 合同勉強会(筑豊地区と合同開催) 2023年9月24日(日) 部会 第1回：2023年4月29日(土) 第2回：2023年8月23日(水) 第3回：2023年8月27日(日) 第4回：2023年11月5日(日) 第5回：2024年1月12日(日) 第6回：2024年2月4日(日)
	【筑豊】 名簿登録者交流会 2023年9月2日(土) 合同勉強会(筑豊地区と合同開催) 2023年9月24日(日) 飯塚市役所市民相談会 2023年10月12日(木) 勉強会(事例検討会) 2024年3月16日(土) 部会 第1回：2023年4月26日(水) 第2回：2023年6月15日(木) 第3回：2023年8月23日(水) 第4回：2023年10月12日(木) 第5回：2023年12月19日(火) 第6回：2024年3月6日(水) 第7回：2024年3月16日(土)
	【筑後】 勉強会 2023年12月2日(土) 名簿登録者研修 2023年8月20日(日) 合同勉強会(筑後地区と合同開催) 2024年1月28日(日) 部会 第1回：2023年4月25日(火) 第2回：2023年7月4日(火) 第3回：2023年10月10日(火) 第4回：2023年12月2日(土)

	【福岡北・糸島】 勉強会 第1回：2023年 6月17日（土） 第2回：2023年11月18日（土） 名簿登録者交流会 2023年 8月20日（日） 合同勉強会（筑後地区と合同開催） 2024年 1月28日（日） 部会 第1回：2023年 4月24日（月） 第2回：2023年 6月12日（月） 第3回：2023年 6月17日（土） 第4回：2023年 7月27日（水） 第5回：2023年 8月20日（日） 第6回：2023年10月23日（月） 第7回：2023年11月18日（土）
	【福岡南・筑紫】 勉強会・研修会 第1回：2023年 4月23日（日） 第2回：2023年10月 7日（土） 名簿登録者交流会 2023年 8月19日（土） 部会 第1回：2023年 4月23日（日） 第2回：2023年 6月16日（金） 第3回：2023年 7月14日（金） 第4回：2023年 8月19日（土） 第5回：2023年10月 7日（土） 第6回：2024年 1月11日（木） 第7回：2024年 3月 8日（金）
	【法人後見部】 部会 第1回：2023年 4月28日（金） 第2回：2023年 6月 7日（水） 第3回：2023年 8月24日（木） 第4回：2023年10月12日（木） 第5回：2023年12月 7日（木） 第6回：2024年 2月 6日（火）
	【継続研修部】 部会 第1回：2023年 6月24日（土） 第2回：2023年 9月23日（土） 第3回：2023年11月17日（金） 第4回：2024年 1月22日（日）
	【人材育成部】 部会 第1回：2023年 7月 1日（土）
	メンターの配置・活用、相談・面談の実施:20件(全地域含む)
リスク管理	①定期報告書チェック 第1回：2023年10月28日（土） 1,582件 第2回：2024年 4月20日（土） 1,573件 ②個別ケース会議：1件 ③苦情対応及び個別面談：名簿登録者個別面談：3件 ④活動報告書データ管理 ⑤候補者名簿登録更新要件未達における留保等対策 ・要件未達者課題提出 ・要件未達者課題未提出者への面談：対象者2名

他機関・他部門との連携	①家裁家事関係機関連絡協議会参加 2023年11月27日（月） ②都道府県ぱあとなあ連絡協議会参加 2023年10月29日（日） ③ぱあとなあ九州ブロック会議開催 幹事県：佐賀県 2024年2月15日（木） ④他機関への委員・講師の派遣 ・中核機関の運営委員、受任調整会議委員、ケース検討会議委員等派遣 ・県社協権利擁護センターへの派遣 体制整備アドバイザー派遣 市町村意見交換会（3回） ⑤日本社士会研修への派遣 ・意思決定支援研修 ⑥家裁定例会議参加 2023年4月24日（月） 2023年6月19日（月） 2023年11月27日（月） 2024年2月15日（月）中止 ⑦地域連携ネットワークPJT 第1回：2023年7月16日（日） 参加者：10名 目的達成のため、PJTを解散した。 ⑧市民後見人養成研修講師派遣 福岡県社協権利擁護センター主催研修（前期、後期2回実施）に講師派遣 ⑨成年後見人届の窓口一本化についての自治体申し入れ 福岡市、北九州市、近郊自治体に対し3士会で要望活動
総括（2024年度に向けた課題等）	（1）2023年度は運営部が新体制になった。業務分担や役割を持たせることで活動をおこなったがさらに円滑に運営が求められる。 （2）家裁からの推薦依頼に加え、県内各地に設置されている「中核機関」からの案件が年々増えている。加えて、家裁に未調整で返す案件も増えてきており、本会として受任できる体制整備や対応について課題である。 （3）苦情や相談件数が増えており、対応の困難さや解決の難しさを痛感した年でもあったため、来年度も苦情解決委員会等と連携して丁寧かつ慎重に進めていく。 （4）本会法人後見の機能を発揮し、過重な個人受任を避け、リスクマネジメントの観点からも事務局体制の整備を推進してきたが、きちんと整備ができなかった。引き続き人材等の体制整備を進めていく。 （5）公的関与のモデル事業について検討を開始した。来年度は福岡県や各関係機関と連携して実施できるよう協議等を重ねていく。 （6）上記（4）（5）を踏まえ、計画的に進行していくところが今後の委員会の課題である。

委員会名・事業チーム名：福岡高齢者・障害者虐待対応チーム

担当理事名：牛島道太

2023年度事業計画	2023年度事業報告
	チーム登録者（2024年3月末日現在） 福岡県弁護士会 60名 福岡県社会福祉士会 53名 2022年度契約市町村等 福岡県、広域連合、16市町 個別ケース会議等への派遣 20件（以下内訳） 養護者による高齢者虐待 12件 養介護施設従事者等による高齢者虐待 7件 養護者による障害者虐待 1件 福祉施設従事者等による障害者虐待 0件 使用者による障害者虐待 0件 研修会等への講師派遣 12件（以下内訳） 弁護士単独 3件 社福士単独 1件 弁護士・社福士ペア 8件 運営管理委員会を毎月開催し、派遣報告・報告事例検討、必要な助言のフィードバックを行いチームの質を担保した。
	チーム登録者研修会 ①日 時：2023年10月21日（土）10:00～17:00 ②場 所：弁護士会館 ③内 容： ・福岡高齢者・障害者虐待対応チームについて（マニュアル、虐待の基礎説明） ・高齢者虐待国マニュアルの改定について ・高齢者に対する養護者虐待の事例研修・障害者に対する養護者虐待の事例研修 ④受講者：社会福祉士13名 弁護士8名
日本社会福祉士会主催委員会及び研修会への参加	都道府県ばあとなあ連絡協議会 ①日 時：2023年10月29日（土）10:30～16:30 ②場 所：Zoom ③内 容：地域における権利擁護支援の取り組み推進について ④派遣者：2名（ばあとなあ委員会含む）
総括 （2024年度に向けた課題等） ①ケース会議派遣依頼は、養介護施設従事者等による高齢者虐待案件の派遣依頼が増加傾向である。その内容が複雑で、助言は高度な内容を求められるものが増えてきている。チーム登録者が適切な助言を行っていくためには、弁護士、社会福祉士ともに、その専門性を高めるとともに後進の育成につとめ、虐待対応の責務を担う市町村・従事者等の支援を図ることで、当事者の権利回復、生活の安定に努めたい。 ②チーム派遣が一部の名簿登録者に偏重している傾向がある。このため名簿登録者に更新のためのアンケート調査を行った結果を踏まえ、名簿の整理が必要である。また登録者が経験を積むためのオブザーバーとして同行する仕組みの検討も必要である。	

委員会名・事業チーム名：長期入院被保護者CA事業推進チーム

担当理事名：向野公浩

2023年度事業計画	2023年度事業報告
福岡県長期入院被保護者CA事業の実施	福岡県域8か所（田川、粕屋、宗像・遠賀、嘉穂・鞍手、筑紫、京築、北筑後及び南筑後）の保健福祉環境事務所に、コーディネート・アドバイザー（CA）を配置して、当該保護課のケースワーカーと連携のうえ、受け入れ条件が整えば退院が可能な患者（被保護者）の退院・社会復帰を支援した。 89名の対応件数のうち、「退院・社会復帰」が61名、対応継続中が20名、支援中止は8名であった。
宮若市長期入院被保護者CA事業の実施	宮若市役所保護人権課にコーディネート・アドバイザー（CA）1名を配置して、当該保護人権課ケースワーカーと連携のうえ、受け入れ条件が整えば退院が可能な患者（被保護者）の退院・社会復帰を支援した。 12名の対応件数のうち、退院・社会復帰は9名、対応継続中は3名、支援中止はなかった。
直方市長期入院被保護者CA事業の実施	直方市役所保護・援護課にコーディネート・アドバイザー（CA）1名を配置して、当該保護課ケースワーカーと連携のうえ、受け入れ条件が整えば退院が可能な患者（被保護者）の退院・社会復帰を支援した。 24名の対応件数のうち、退院・社会復帰は5名、対応継続中は15名、支援中止は4名であった。
定例CA会議の開催	博多事務所にてCA会議を4月・6月・8月・9月・10月・11月・12月・1月・2月・3月の計10回実施した。 会議の中ではCA相互のピア・スーパーバイズを含め、退院・社会復帰支援の現状と課題を協議、検討した。また、2月15日に「個人情報保護について」と題して内部研修会を実施した。 退院先にかかわる社会資源情報の共有化を図り、本事業の推進に寄与した。会議には県本庁保護・援護課の担当係長を招聘し、本事業の趣旨・役割について意見交換を実施し、事業の円滑化につなげた。
総括 （2024年度に向けた課題等） （1）本事業は、2007年にセーフティネット支援対策等事業費補助金の「生活保護精神障害者退院促進事業」（国庫補助率10/10）として開始されたが、2015年度からは国庫補助率が3/4に削減された。2017年度の県CA事業からは、退院後の支援業務が新たに加わり、契約日数が1,067日の事業となっている。近年のコロナ禍もあり、面会が困難な状況や退院可能な対象者数の減少傾向がみられる。2024年度は、コロナによる面会制限はあるものの、対応件数及び退院・社会復帰件数を増やすとともに、長期入院化を防ぐ取り組みの強化を検討していきたい。 （2）2024年度も、コーディネート・アドバイザー、担当ケースワーカーはもとより、地域の保健・医療・福祉関係者等との連携強化を図り、役割を遂行していく。	

2023年度事業計画	2023年度事業報告
相談支援員とのミーティング	福岡市子どもの健全育成支援事業定例会を毎月1回開催。会議のなかで新たな社会資源の共有や、相談支援員の事例報告及び検討を行った。
市とのカンファレンス、事業報告	毎月の定例会にて、市からの報告と情報提供、及び課題や懸案事項の共有化と検討をおこなった。 毎月、月例の実施報告、並びに年度終了後、年間報告を福岡市に提出した。
職員の資質向上への取り組み	(1) スーパーバイザーによる定期的な各区訪問（原則月2回）により相談支援員へのスーパービジョン、フォローアップを行った。 (2) 3回の従事者研修を行った。 ①「施設見学と福岡市出前講座(地域における子育て支援について)」 期 日：2023年 5月11日（木） 場 所：にじげん福岡～福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)～工房陶友 ②「人権研修」 期 日：2024年 1月15日（月） 場 所：福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ) ③「愛着障がいと発達障がいの違いと対応」 期 日：2024年 2月15日（木） 場 所：福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)
関係者会議(市担当者、相談支援員等、事業担当理事)	困窮世帯支援（生活自立支援センター）、訪問型学習支援（トライ）と定例会を利用して会議を実施した。
効果測定	年間の実績をまとめ、年間報告書を作成した。 効果測定は、市が指定した12項目について年3回(4～7月・8～11月・12～3月)行い、その集計を年間実績としている。
総括 （2024年度に向けた課題等） (1) 2023年度は、12名中3名の新人相談支援員を擁し事業をスタートしたが、5月で1名が退職し、また、配置転換を希望する相談支援員も生じた。年度当初は、再配置を余儀なくされるなど混乱したが、2024年度に向けて全相談支援員が継続し事業に従事できている。 2024年度中に1名が産休を取得予定であるが、代替職員の手当てもできている。 事業の実施にあたり、業務が逼迫傾向な区があり、複雑な背景・課題を抱える世帯の増加など、相談支援員の負担感がいっそう増している。 2023年度は、相談支援員の働きやすさの向上のため、携帯を含むOA機器の更新によるIT環境の向上を目指したが、ITが不得意な相談支援員には負担を掛ける事になり、統括・スーパーバイザーもその支援に時間を要し、本来の業務支援が十分にできなかった。 (2) 2024年度は、福岡市の所管課も保護課に変わり、生活困窮世帯支援の流れにも変更があるが、生活自立支援センター、訪問型学習支援（トライ）と協力体制の維持を図っていく。 新たな機関のみならず既存の機関とも変化する情報をとらえ、共有や連携により十分なアセスメントと充実した支援計画を作成していくことが望まれる。個別ケースについては、長期の支援に及ぶ事が多い事業であるが、時に担当ケースワーカーとともに立ち止まり、振り返りや個別支援計画の見直し等も必要とされる。支援対象者の気持ちに寄り添い、与えられた役割の中で、可能な限りの支援を実践していきたいと考える。	

2023年度事業計画	2023年度事業報告
巡回相談・アフターケア業務の実施	ホームレス巡回相談事業においては、福岡市内を9エリアに分け、巡回・訪問型のアウトリーチの手法を用いて巡回相談事業を実施。福岡市生活福祉部生活自立支援課・博多区保護3課の所轄部局及び関係機関等と連携を図りながら、路上生活者の相談支援及び居宅設定等に付随する手続き等の支援をおこなった。 2023年度は新規対応者52名含む延べ1,178名(目視確認を含む4,931件対応)への支援をおこなった。 アフターケア事業においては、巡回相談支援から直接居宅設定となった方々、並びに福祉センター「あおぞら」、抱樸館シェルター及び就労自立支援センター等からの2023年度退所者17名を含む32名を対象に訪問等による居宅生活の支援を実施し、1,338件対応した。 また再路上化防止を主な目的とした定着支援は25名を対象に135件対応した。 コロナの影響が若干あったものの、ほぼ予定通り実施することができている。ただし、今年度より職員9人体制から7人体制とすることで福岡市と契約。人員の確保が困難で既存の職員の勤務日数を増やして対応している。
ホームレスの実態に関する全国調査(概数調査)の受託・実施	2023年1月15日(月)から1月20日(土)の6日間で実施。当該事業相談員のみで福岡市一円を巡回し、目視によってホームレス数の調査を行なった。主に「都市公園」「河川」「道路」「駅舎」「その他の施設」等の区分ごとにそれぞれカウントし報告。
関係機関主催会議への参加	定期的に行われる関係機関主催の定例会議に参加し、当該事業の円滑な実施の増進を図る予定であったが、コロナの影響で資料提出-ウェブ会議-対面での会議で情報共有を実施。 ①福岡県ホームレス自立支援推進協議会 1回/年 ウェブ会議に統括参加 ②福岡市生活困窮者支援体制を構築するためのプラットフォーム協議会 全4回 対面会議に統括参加 ③支援調整会議(福祉センターあおぞら)(状況に合わせ資料提出&ウェブ会議&対面で毎月実施) ④就労自立支援センター会議(状況に合わせ資料提出&ウェブ会議実施&対面で毎月実施) ⑤抱樸館シェルター会議(状況に合わせ資料提出&ウェブ会議&対面で毎月実施) ⑥福岡市民生委員児童委員協議会自立支援部会令和 ⑦令和5年度ホームレス結核検診事業調整会議 ⑧救護施設「野の花」業務連絡会議

職員研修の実施	①スーパーバイザーによるスーパービジョンを毎月実施 (2023 年 4 月～2024 年 3 月) ②福岡市新任保護課職員研修への参加 (2023 年 5 月 11 日 (木) 2 名参加) ③福岡県生活困窮者自立相談支援事業従事者研修への参加 (1 名参加) ④令和 5 年度九州ブロック再犯防止シンポジウムへの参加 (1 名参加) ⑤研修会 ・2023 年 8 月 28 日 (金) 福岡大学病院 認定看護師 河野さつき氏による講座開催 テーマ「若年層のメンタルヘルスの特徴と具体的な対応例・病識のない方に対して気づきを与える方法」 ・2024 年 3 月 11 日 (月) 福岡県保健医療介護部健康増進課こころの健康づくり推進室 精神保健福祉センター相談指導課 技術主任 米田由貴氏による講座開催 テーマ「地域で暮らすために～精神疾患患者の地域生活を支える取組」
定例会の開催	①活動報告会を毎月開催。当該事業の進捗状況及び事業の現状と課題を協議・検討した。 ②事例検討会を偶数月に開催。当該事業に係る制度施策等の社会資源の情報を共有し、事業の推進に寄与できた。
総括 (2024 年度に向けた課題等) 他府県からの流入や移動型ホームレスの増加、ネットカフェ等を利用する見えにくい住所不定者の出現・増加がみられるため、都市中心部の巡回、他事業所との連携による情報収集を従来通り強化していく。 最近のホームレスの傾向として若年化が進むと同時に情報入手が安易になり、路上生活に至る前の保護申請が急増している。一方で情報弱者が取り残されるという課題があり、巡回強化が求められている。 アフターケア事業においては、訪問支援終了後の 1 回/3 ヶ月の電話連絡を軸とした定着支援を継続することで再路上化を防ぎ、居宅生活を定着させる結果へと繋がっている。またサロン活動では昼食を用意するなど参加者の増加に繋げ、年 6 回偶数月に開催し、孤立化しないよう努めていく。	

2023年度事業計画	2023年度事業報告
主な業務内容 ①主に介護保険の被保険者ではない生活保護者（以下「当該者」という）の介護扶助にかかる自立支援、ケアプラン等の点検業務 ②当該者に対する介護サービスの利用にかかる指導・援助及び指定介護機関との連絡調整 ③当該者の介護扶助適正化にかかる支援及び実績確認等業務 ④当該者にかかる自立支援給付該当可能性確認台帳の整備に関する業務 ⑤その他、直方市から求められた技術的な支援及び事務作業	1年間で対象者計4,657名のケアプランチェック等、下記の業務を行った。 ア、居宅介護支援事業者より提出された計画書、限度額、他法優先、障害者総合支援法等のチェック イ、福岡県国民健康保険団体連合会より送付された公費負担請求額通知書（公費負担者分）とケアプランの利用票の実績確認 ウ、障害者総合支援法を利用される介護保険との併用利用者のケアプラン等を障害者福祉担当者と共有、ケアプランを提出 エ、計画書、利用表について、居宅介護支援事業者を確認のうえ指導を行い、訂正・再提出を依頼 オ、ケースワーカーと担当者会議に同行し、適切な介護サービスがケアプランに導入されているか専門職として意見 カ、施設や介護サービス等について、ケースワーカーと共有し連携
総括（2024年度に向けた課題等） 居宅介護支援事業者のケアマネジャーは、保護・援護課にてケアプランをチェックするという適正化事業の内容について認識しており、適切なケアプランを作成しなければならないという意識を持つことができているため、本事業の効果は継続して発揮されていると考えられる。 今年度は、ケアプラン初回・更新・変更時以外のサービス利用票提出ない事業所数か所のみ、居宅介護支援事業所へのサービス利用票を毎月提出して頂くことを周知徹底した事で、生活保護廃止後継続請求していた事例、限度額超過事例を早期に発見し返還や単位数抑制につながるなどの効果があったと考えている。 2024年度は本事業7年目となる。引き続き介護保険サービスや介護扶助の適切な運営、本事業の継続性に資する取組を実施していきたい。	

【2】福祉サービス第三者評価事業

委員会名・事業チーム名：第三者評価運営委員会

担当理事名：芳川龍太

2023年度事業計画	2023年度事業報告
(1) 福岡県福祉サービス第三者評価機関としての評価調査実施	以下のとおり 11 件の評価を実施した。 社会的養護関係施設：8 件 ・児童養護施設：4 件 ・母子生活支援施設：3 件 ・乳児院：1 件 保育所：2 件 高齢者施設（養護老人ホーム）：1 件
(2) 評価調査機関としての基盤強化	評価調査者の人材育成及び増員 県社協の養成研修への受講者派遣 1 名（7 月） 全社協の評価調査者養成研修受講者派遣 1 名（3 月） 全社協の評価調査者継続研修受講者派遣 0 名 県社協の調査者継続研修への受講者派遣（3 月） 内部継続研修会の開催 第 1 回 日 時：9 月 2 日（土）14:00～15:30 場 所：クローバープラザ 受講者：15 名 テーマ：現地調査場面のロールプレイ 評価コメントの書き方 第 2 回 日 時：3 月 9 日（土）13:30～15:00 場 所：Zoom オンライン研修 受講者：16 名 テーマ：保育の標準化とは何か？ 受審体制の基盤整備 調査者心得等マニュアル類の見直し更新 委員会毎に協議 県内評価機関との連携 第三者評価推進機構による県内他調査機関との連絡会参加 都合により欠席 県内児童相談所との連絡会の実施 福岡市児相「えがお館」との連絡会を開催 日 時：2023 年 11 月 21 日（水）13:30～15:00 参加者：6 名 苦情解決従事者研修（県社協主催）の受講 3 名（2 月、オンライン研修） 研究開発部の設置 運営委員会にて設置に向けた協議を継続中
総括 （2024 年度に向けた課題等） 事業計画では 12 件の申込を見込んでいたが、最終的に 11 件の評価の実施となった。各調査にできるだけオブザーバー（未経験者）を配置し人材育成にも努めた。運営委員会の中で各種マニュアルの検討や規程の修正について協議しているが、なかなか進まない現状がある。 内部研修に関する協議や評価申込の対応に関する調整を運営委員会の中で実施しているが、月に一度の運営委員会ではそれ以上の時間の確保がなかなか難しい。 評価調査者の質を高める取組としては、予定通り年に 2 回の内部研修を開催。2 回ともオンライン研修を予定していたが、ロールプレイを効果的に行うため第 1 回内部研修は集合研修にて実施した。また、新しい取組として福岡市児相「えがお館」との連絡会を開催。児童相談所と子ども達の関りについて理解を深める機会となった。 次年度は内部研修のさらなる充実（4 回の開催を予定）を図りつつ、関係機関との連携を図る取組を継続していき質の高い第三者評価事業の運営に取り組んでいきたい。	

【3】社会福祉に関する調査研究・普及啓発事業

委員会名・事業チーム名：実習指導者養成研究委員会

担当理事名：向野公浩

2023年度事業計画	2023年度事業報告
実習指導に関する研修会開催	以下の通り研修会を開催した。 (1) 実習指導者説明会 期 日：2023 年 6 月 23 日（金） 場 所：クローバープラザ 受講者：48 名（会員 25 名、非会員 23 名） (2) 社会福祉士実習指導者講習会 期 日：2023 年 11 月 28 日（火） 11 月 29 日（水） 場 所：クローバープラザ 受講者：105 名 (3) 実習指導者フォローアップ研修会 期 日：2023 年 12 月 10 日（日） 場 所：クローバープラザ 受講者：23 名
実習指導に関する調査、研究	社会福祉士実習指導者講習会及びフォローアップ研修会、実習指導者説明会後にアンケートを実施した。
実習指導に関する団体との協力・連携	フォローアップ研修会を通じて、養成校教員への参加を呼びかけた。
総括 （2024 年度に向けた課題等） 実習指導者講習会については、昨年度より定員を増やし、105 名の方が研修を受講され、アンケート結果からも、数多くの高い評価を得た。そして、今年度は、新カリキュラムの内容を広く周知するため、実習指導者の説明会を開催し 48 名の参加があった。そして、実習指導に関する研修会では、非会員の受講生が多いことから、社会福祉士会への入会促進を併せて行なった。 来年度は、アップデート研修を開催することで、実習指導者の質の向上を図っていく。	

2023年度事業計画	2023年度事業報告
福岡県社会福祉士会研究誌第13号の発行	2023年度は、研究誌第13号を発行予定であったが、論文投稿数が発行規定の最低本数を満たすことができず、第13号の研究誌発行は見送りとなった。
論文の書き方研修会の開催	論文の書き方研修会を開催した。 日 時：2024年 3月16日（土）13:00～16:30 場 所：筑紫女学園大学 内 容：研究初学者を対象にした論文の書き方の講義 研究を行っている会員からの研究報告など 受講者：4名（会員3名、非会員1名）※委員を除く
ソーシャルワーク実践研究会の開催	2023年度は以下のとおり開催した。 日 時：2023年 4月15日（土）13:00～16:00 場 所：筑紫女学園大学 受講者：7名 日 時：2023年 6月17日（土）13:00～16:00 場 所：筑紫女学園大学 受講者：7名 日 時：2023年 8月 5日（土）13:00～16:00 場 所：筑紫女学園大学 受講者：3名 ※なお、ソーシャルワーク実践研究会では、年に1回の拡大研究会の開催を検討していたが、論文の書き方研修会との差別化が十分に検討できず、実施できていない。
2022年度に提案した新規事業案について	2022年度に、①研究倫理審査の仕組みの創設、②会員の研究論文の表彰制度及び経済的支援の仕組みの創設を提案している。本会会員の研究活動を支援するためのものであるが、具体的な規程等の作成に時間を要しており、実施に至っていない。
総括 （2024年度に向けた課題等） (1) 研究誌の発行については、論文投稿数が規定の数に満たなかったため発行を見送っている。論文投稿者にとって、研究誌の発行等が見送りになることは、研究のモチベーションにも影響を与えるものでもあり、あまり好ましくない状況である。そのため、次年度より、書評等の受付を検討し、毎年度研究誌が発行できるような状況を作る必要がある。 (2) 論文の書き方研修会は例年通り開催が出来ている。また、ソーシャルワーク実践研究会も上記の通り開催し、参加者同士で研究活動について討論を行う有意義な時間となっている。 (3) 2022年度に提案した新規事業案に関しては、規程作成に向けての協議等の進捗が難航しており、引き続き協議等を行う時間が必要となっている。 (4) 2024年度は、(3)の内容検討に加え、①研究誌の発行を行うこと、②ソーシャルワーク実践研究会の参加者による共同研究の実施を行いたい。	

委員会名・事業チーム名：地域包括ケア推進委員会

担当理事名：牛島道太

2023年度事業計画	2023年度事業報告
地域包括支援センター社会福祉士実務研修（認定社会福祉士認証研修）の実施	「地域共生社会推進研修」を開催した。 期 日：2024 年 1 月 7 日（日） 1 月 28 日（日） 2 月 4 日（日） 場 所：大野城市総合福祉センター3 階大会議室 内 容：地域共生社会に求められる理論とアプローチ 受講者：22 名
日本社会福祉士会 全国実践研究集会へ委員派遣	オンライン開催のため自由参加。
中堅職員向け研修の開催	「調査研究の実施方法（基本編）」を開催した。 期 日：2024 年 3 月 17 日（日） 内 容：地域共生社会に求められる理論とアプローチ 講 師：筑紫女学園大学 大西良准教授 受講者：7 名
地域包括交流会	地域包括支援センター等の職員向けの交流会をオンラインにて実施した。 期 日：2023 年 7 月 30 日（日） 参加者：3 名
実践報告会の開催	実践報告会：来年度へ延期
地域包括支援センターに対する調査研究	来年度検討予定
地域包括支援センター社会福祉士メンター制度のあり方の検討・実施	1 名申し込みあり対応
行政・地域包括支援センターとの連携	必要時委員を虐待防止研修等に派遣した。
他委員会との連携	福岡県高齢者虐待対応専門職員研修の案内とチーム登録者研修会の周知を行った。
総括 （2024 年度に向けた課題等） 来年度からは、認証研修を隔年で行うこととし、更なる研修内容の検討と活動の充実を図る所存である。 独自研修として「調査研究の実施方法（基本編）」の研修を企画実施した。 メンター制度は地域包括支援センターに従事する経験が少ない社会福祉士に対しては有効に活用でき、メンティからも好評を得ているので、来年度も継続実施していきたい。 メンター制度や他委員会との連携は、委員会活動として行うことで、委員・会員双方の資質向上を図れるものと実感している。今後も継続をしていきながら、更に中身の充実を図っていく。	

委員会名・事業チーム名：広報委員会

担当理事名：安田征司

2023年度事業計画	2023年度事業報告
「ふくおか社会福祉士通信」の編集	通信は毎月初に年10回発行。 (6月と7月、2月と3月は合併号として発行した) 発行に際し委員4名で誤字脱字等のチェックを行い、理事会の意見を踏まえながら紙面づくりを行った。
県民対象の福祉セミナーの開催	以下の通り開催した。 日 時：2023年12月9日(土) 13:30～15:00 場 所：Zoom テーマ：役にたたなくてもいい場所 ソーシャルワークアウトリーチのフィールドとしてのスナック 講 師：合同会社 Trenchant 代表社員 フィッシュ明子氏 受講者：51名
出前講座の開催	今年度は1件開催した。 期 日：2024年3月21日(木) 場 所：ふくふくプラザ3階 内 容：どうなる？親なき後の暮らしについて ～知的障がい、発達障がいのある人の将来～ 令和5年度 知的障がいや発達障がいのある人を支援するボランティアフォローアップ講座の一コマとして、福岡市ボランティアセンターからのご依頼。 受講者：16名
総括 (2024年度に向けた課題等) 通信原稿は、研修会の案内だけにとどまらず、書籍の紹介や社会福祉分野における動向についての掲載を継続していく。そのため委員だけでなく、多くの会員に参加いただけるよう、啓発活動も継続していく。 県民向けセミナーについては、引き続き市民を対象とした社会福祉に関する制度の普及や啓発を行っていく。 出前講座については、申し込み地域の近隣にお住いの会員を講師として派遣し、社会福祉士の活動について幅広く知っていただく。 6月に、ホームページのリニューアルを行う予定。	

2023年度事業計画	2023年度事業報告
入会啓発活動	1 国家試験受験対策講座受講者に対して、合格にむけ激励のメッセージと社会福祉士会の紹介を行った。 期 日：2023 年 8 月 6 日（日）受験対策講座 9 月 24 日（日）講座後お疲れ様会 （お疲れ様会開催：2 名参加） 2 国家試験実施日に受験者に応援メッセージと品物等を配布した。 期 日：2024 年 2 月 4 日（日）※国家試験当日 場 所：北九州総合展示場 ※国家試験会場 3 学生向け出前講座を開催した。 日 時：2023 年 8 月 9 日（水）13:20～14:20 11 月 23 日（祝）14:30～16:00 場 所：福岡県立大学（Zoom 開催） 西南学院大学
会員活動促進	1 委員会活動等参加に向けてのオリエンテーション 日 時：2023 年 12 月 2 日（土）14:30～17:00 場 所：エイムアテイン 受講者：20 名 2 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会 （大分大会）懇親会 日 時：2023 年 7 月 1 日（土）19:00～21:00 参加者：26 名
総括 （2024 年度に向けた課題等） （1）入会啓発活動は計画通り実施することが出来た。学生向け出前講座については、養成校との調整がうまくいかず、2 回しか開催できなかったため、講座を快諾して頂ける養成校を選出しながら確実に開催できるよう取り組む。 （2）2 回目の開催となった委員会活動等参加に向けてのオリエンテーションについては、前回の約 3 倍となる 20 名の会員が参加された。また、参加された 20 名のうち、大半の会員が委員会の委員に応募されたため、一定の成果を出すことが出来た。2024 年については、定員を満たしていない委員会もあることから、会員活動の促進に向けての交流会を開催し、多くの会員が会の活動に参加できるよう取り組んでいく。	

【4】福祉人材育成事業

委員会名・事業チーム名：生涯研修センター協議会

担当理事名：田中伸助

2023年度事業計画	2023年度事業報告
○認定社会福祉士制度研修認証申請を行い、会員の認定社会福祉士認証研修受講の機会を確保する。 ○共通専門・分野専門・SV事業の進捗管理及び達成状況の把握と評価を適切に実施する 認証申請 (4/1～4/14) ○高齢者委員会、医療委員会、地域多文化委員会（新規3本） ○こども家庭委員会（更新1本） 認証申請 (10/1～10/14) ○生涯研修センター協議会（新規1本） ○地域多文化委員会（更新1本）	【2023年度実施認証研修】 ①こども家庭福祉の理論とアプローチ研修 2023年11月3日（金） 4日（土）（2日間） ②リーガルソーシャルワーク研修(ステップアップ編) 2023年10月29日（土） 10月30日（日）（2日間） ③発達障がい理解と発達障がい者に対する支援の実践 2023年11月23日（木） 12月2日（土）（2日間） ④災害支援活動者養成研修 2024年1月6日（土） 1月7日（日）（2日間） ⑤家族ソーシャルワーク研修 2024年2月17日（土） 2月18日（日）（2日間） ⑥地域共生社会推進研修 2024年1月7日（日） 1月28日（日） 2月4日（日）（3日間） 新規認証申請 1. こども家庭委員会(旧児童家庭委員会) こども家庭支援の理論とアプローチ 2023/11/4～2026/11/3 有効 認証研修更新 1. 司法福祉実践研修委員会 リーガルソーシャルワーク研修(ステップアップ編) 2024/4/1～2030/3/31 有効
各種センター協議会 (全てオンラインでの開催)	福岡県社会福祉士会生涯研修センター協議会 第1回 2023年5月23日（火） 第2回 2023年11月15日（水） 第3回 2024年3月5日（火） 九州沖縄ブロック生涯研修センター協議会 2023年12月13日（水）

生涯研修制度と認定社会福祉士制度広報啓発（3月下旬） ○認定社会福祉士オリエンテーション・キャリアパス研修（集合研修方式）	新型コロナウイルスの感染拡大の為、中止
SV事業（通年） SVバイザーミーティング SVバイザー研修	【スーパービジョン研修】 ・スーパーバイザー23名 ・スーパーバイザー25名受講中 【SVバイザーミーティング】 ・2023年12月9日（土） 8名参加 【SV&ぱあとなあ説明会】 ・2024年2月17日（土） 20名参加
総括（2024年度に向けた課題等） （1）新型コロナウイルス感染拡大のため、1本が中止となり、対面方式で2本、リモートで1本の認証研修を行った。 （2）スーパービジョン研修については、予定どおり受講希望者に案内し実施した。認定社会福祉士取得に向けた重要な研修となっているため、引き続きスーパーバイザーのニーズに応えられるように体制を整えていく。またスーパーバイザーへのフォローアップも検討していく。また、グループスーパービジョンの実施体制づくりの検討を行う。 （3）新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「認定社会福祉士オリエンテーション」は開催できなかったが、2024年度も継続して実施する。その内容も工夫し更なる制度の広報啓発活動に努めたい。 （4）研修を企画運営する、高齢者、障害者、医療、児童家庭、地域社会・多文化、ぱあとなあ各委員会とも情報交換、共有を行い適切な運営を継続的に行っていく。 （5）地域社会・多文化委員会が、新たに「司法福祉実践研究委員会」を立ち上げているため、当該委員会が実施する研修について課題共有し、研修の広報拡大・充実に努める。	

委員会名・事業チーム名：基礎研修委員会

担当理事名：長野圭介

2023年度事業計画	2023年度事業報告
基礎研修Ⅰの開催 【目的】 ・専門職が職能団体を持つ意義を知る ・日本社会福祉士会・都道府県社会福祉士会の組織と役割を知る ・生涯研修制度を知る ・社会福祉士共通基盤を知る ・実践現場における社会福祉士の専門性を踏まえた役割を知る ・実践を踏まえて社会福祉士が倫理綱領や行動規範を持つ意味を知る	【第1回集合研修】 科 目：ソーシャルワーク理論系科目Ⅰ 「社会福祉士としての専門性について考える」 <第1グループ> 日 時：2023年8月27日（日）10：00～14：00 場 所：クローバープラザ 受講者：42名 <第2グループ> 日 時：2023年9月3日（日）10：00～14：00 場 所：クローバープラザ 受講者：41名 【中間課題研修】 「社会福祉士に共通する専門性の理解」 ※eラーニングにて実施

	【第2回集合研修】 科目：権利擁護・法学系科目Ⅰ「社会福祉士の倫理綱領の実践適用」 <第1グループ> 日 時：2024年 1月28日（日）10：00～14：00 場 所：クローバープラザ 受講者：40名 <第2グループ> 日 時：2024年 2月 4日（日）10：00～14：00 場 所：エイムアテイン 受講者：42名 【基礎研修Ⅰ 修了者 81名】
基礎研修Ⅱの開催 【目的】 ・社会福祉士の倫理綱領や行動規範を踏まえた実践の理解ができる ・社会福祉士共通基盤について理解を深め、実践との関係を知る ・社会福祉援助の展開過程を知り、それを踏まえた実践ができる ・実践力を高めるための基礎的な援助技術を身につける ・スーパービジョンについて学ぶ	【第1回集合研修】 日 時：2023年 4月22日（土） 9：30～17：00 場 所：クローバープラザ 科 目：ソーシャルワーク理論系科目 「相談援助サービスの視座と社会福祉援助の展開過程」「実践のためのアプローチ」「自立生活支援とコミュニティソーシャルワーク」 受講者：69名 【第2回集合研修】 日 時：2023年 5月14日（日） 9：30～17：00 場 所：クローバープラザ 科 目：ソーシャルワーク理論系科目Ⅰ 「実践事例演習Ⅰ」 受講者：68名 【第3回集合研修】 日 時：2023年 6月11日（日） 9：30～17：00 場 所：クローバープラザ 科目1：地域開発・政策系科目Ⅰ 「社会資源の理解と社会資源開発」「連携システムの在り方とネットワークの構築」 科目2：人材育成系科目 「スーパービジョンとは」「スーパービジョンのモデルセッションを見る」「スーパーバイジー体験」 受講者：63名 【第4回集合研修】 日 時：2023年 7月 9日（日） 9：30～14：00 場 所：クローバープラザ 科 目：地域開発・政策系科目Ⅰ 「地域における福祉政策と福祉計画」「社会福祉調査の方法と実際」 受講者：63名 【第5回集合研修】 日 時：2023年 8月20日（日） 9：30～17：00 場 所：クローバープラザ 科 目：権利擁護・法学系科目Ⅰ 「社会福祉における法Ⅰ」「ソーシャルワークと権利擁護の視点Ⅰ」「社会福祉における法Ⅱ」「ソーシャルワークと権利擁護の視点Ⅱ」 受講者：64名

	【第6回集合研修】 日 時：2023 年 9 月 18 日（月・祝） 9：30～17：00 場 所：クローバープラザ 科 目：実践評価・実践研究系科目Ⅰ 「実践研究の意義と方法」「実践研究のための記録」「実践評価の方法」 受講者：64 名 【第7回集合研修】 日 時：2023 年 10 月 29 日（日） <第1グループ> 9：30～12：00 <第2グループ> 14：00～16：30 ※同一内容を午前・午後の2回に分けて実施 場 所：クローバープラザ 科 目：実践評価・実践研究系科目 「実践研究発表の方法」 受講者：64 名 【基礎研修Ⅱ 修了者 64 名】
基礎研修Ⅲの開催 【目的】 ・社会福祉士としての権利擁護実践の基礎を理解する ・ソーシャルワークの理論をふまえた援助システムを理解する ・地域福祉システムと実践の関係を理解する ・事例研究の基礎を理解する ・スーパービジョンを体験する	【第1回集合研修】 日 時：2023 年 5 月 21 日（日） 9：30～17：00 場 所：クローバープラザ 科目1：実践評価・実践研究系科目Ⅰ 「対人援助と事例研究」 「事例研究の基本的枠組み」 「事例研究の方法としてのケースカンファレンス」 科目2：ソーシャルワーク理論系科目Ⅰ 「実践事例演習Ⅱ」 受講者：63 名 【第2回集合研修】 日 時：2023 年 7 月 8 日（土） 9：30～15：30 場 所：クローバープラザ 科 目：実践評価・実践研究系科目Ⅰ 「模擬事例検討会」 受講者：64 名 【第3回集合研修】 日 時：2023 年 7 月 23 日（日） 9：30～15：30 場 所：クローバープラザ 科 目：権利擁護・法学系科目Ⅰ 「意思決定の支援」 受講者：63 名 【第4回集合研修】 日 時：2023 年 8 月 19 日（土） 9：30～15：30 場 所：クローバープラザ 科 目：地域開発・政策系科目Ⅰ 「地域における福祉活動」 受講者：65 名

	【第5回集合研修】 日 時：2023 年 9 月 10 日（日） 9：30～15：30 場 所：クローバープラザ 科 目：サービス管理・経営系科目Ⅰ 「社会福祉の組織と組織マネジメントの意義、会議運営」「福祉サービスにおける質の評価サービスマネジメント」「リスクマネジメントと苦情解決システム」 受講者：63 名 【第6回集合研修】 日 時：2023 年 10 月 9 日（月・祝）9：30～15：30 場 所：クローバープラザ 科 目：サービス管理・経営系科目Ⅰ 「事例研究」（苦情、リスク、サービス評価） 受講者：63 名 【第7回集合研修】 日 時：2023 年 11 月 23 日（木・祝）9：30～17：00 場 所：クローバープラザ 科 目：地域開発・政策系科目Ⅰ 「地域の課題解決に向けた具体策について」 受講者：63 名 【第8回集合研修】 日 時：2024 年 1 月 14 日（日） 9：30～17：00 場 所：クローバープラザ 科目1：人材育成系科目Ⅰ 「スーパービジョンのモデルセッション」 科目2：人材育成系科目 「新人教育プログラム」 受講者：59 名 【基礎研修Ⅲ 修了者 61 名】
総括 （2024 年度に向けた課題等）	（1）2023 年度は、e ラーニング一部導入形式にて演習部分を集合研修開催とした。過去数年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で演習部分もオンライン研修であり、久しぶりの全日程集合研修となった。事務局の手助けもあり、滞りなく開催できたが、委員としては不慣れな部分もあった。受講者が研修に専念できるよう研修運営について十分な事前確認を行い、委員だけでも運営が滞りなくできるようにしていきたい。 （2）委員会の人員体制が十分とは言えず、委員一人ひとりの負担感が大きい中で、各委員が役割を遂行し、全ての研修を終えることができた。今後は、委員会の人員体制を整え、委員一人ひとりが負担感なく研修運営にあたることができるようにする。

委員会名・事業チーム名：こども家庭委員会

担当理事名：田中伸助

2023年度事業計画	2023年度事業報告
認定社会福祉士認証研修の開催	認定社会福祉士認証研修 期 日：2023年11月4日（土） 11月5日（日） 場 所：クローバープラザ テーマ：「こども家庭福祉の理論とアプローチ」1単位
「つながろう！チャイルド・サポート・ネットワーク(C.S.N)」	研修会等の開催計画はコロナ禍のため中止。
福岡市子ども虐待防止活動推進委員会 (1)市民フォーラム参加 (2)ワーキンググループ参加 (3)推進委員会参加 (4)児童虐待対応研修	(1). 市民フォーラム中止 (2). ワーキンググループ参加…年1回開催 日 時：2023年4月24日（月）19:00～20:30 場 所：福岡市役所15階会議室 (3). 福岡市児童虐待防止活動推進委員会(年2回開催) 期 日：2023年6月20日（火）参加 場 所：エルガーラホール 期 日：2024年2月27日（火）参加 場 所：天神ビル11号会議室 (4). オレンジリボン街頭啓発キャンペーンに振替 日 時：2023年11月28日（火）16:40～18:00 場 所：博多駅前でチラシ配布 ※子ども虐待防止専門者研修…中止
子ども家庭支援WEBセミナー (毎回 Zoom オンラインにより開催)	第1回「子どもアドボカシー」 日 時：2023年5月20日（土）19:00～20:00 25名参加 第2回「ヤングケアラー」 日 時：2023年7月15日（土）19:00～20:00 25名参加 第3回「国の動向・ミニ講座(里親さんミニ講演)」 日 時：2023年9月16日（土）19:00～20:00 24名参加 第4回「性的虐待・ミニ講座(子どもの睡眠)」 日 時：2023年11月18日（土）19:00～20:00 23名参加 第5回「国の動向・ミニ講座」 日 時：2024年1月20日（土）19:00～20:00 中止 第6回「国の動向(こども家庭SW)」 日 時：2024年3月16日（土）19:00～20:00 20名参加
総括 （2024年度に向けた課題等） 認証研修を継続して実施すること。 子ども家庭支援WEBセミナー登録者とチャイルド・サポート・ネットワーク(C.S.N)との統合。 新しい委員会メンバーやWEBセミナー登録者相互の連携と新たに学習会を実施すること。 実践研究プロジェクトは次の研究課題「医療的ケア児の現状と課題」として企画すること。	

委員会名・事業チーム名：医療委員会

担当理事名：小田村悠希

2023年度事業計画	2023年度事業報告
ソーシャルワーカー座談会の開催	ソーシャルワーカー座談会を下記の通り3回開催した。 【1回目】 日 時：2023年7月14日(金) 19:00～20:00 場 所：Zoom 参加者：2名 内 容：コロナ禍での仕事の変化について、それぞれ経験したことや思いを参加者で議論・共有した。 【2回目】 日 時：2023年12月8日(金) 19:00～20:00 場 所：Zoom 参加者：5名 内 容：MSWの現場の日常やギャップ等に焦点をあて、参加者で議論・共有した。 【3回目】 日 時：2024年3月15日(金) 19:00～20:00 場 所：Zoom 参加者：4名 内 容：MSWの魅力に焦点をあて、参加者で議論・共有した。 ※参加者数は、委員を除いた人数を記載。 ※また、座談会は全てZoomを用いたオンライン形式で開催した。
総括 (2024年度に向けた課題等) (1) 2023年度は、オンライン形式によるソーシャルワーカー座談会を開催している。3回開催し、参加者からは好意的な感想がほとんどであった。 (2) 一方で、その他の独自研修や認証研修の開催には至っていない。現状の体制での研修会等の開催は委員への負担が大きく、追加の委員の確保等も困難な状況であった。 (3) 2024年度は、前年度まで活動をして頂いていた委員が任期満了等の事情により、全員退任されている。よって、医療委員会の活動継続の在り方などについて、再度協議を行う必要があると考える。	

委員会名・事業チーム名：障がい者支援委員会

担当理事名：原田 剛

2023年度事業計画	2023年度事業報告
認定社会福祉士認証研修の開催 障害分野【対象者別科目】 発達障がいの理解と発達障害への支援の実際	認定社会福祉士認証研修 日 時：2023年11月23日(木) 9:30～17:00 12月2日(土) 9:30～17:00 場 所：Zoom 内 容：発達障害者支援法と発達障害の理解 自閉症・学習障害・広汎性発達障害等の理解 行動療法 等 受講者：8名

障がい者支援委員会独自研修の開催	委員会独自研修 日 時：2024 年 1 月 20 日（土）9:00～12:00 場 所：クローバープラザ 内 容：障がい者の就労支援の現状と関係機関の役割 受講者：16 名
県民向け出前講座への講師派遣	1 件の申し込みがあり、委員会委員を派遣することができた。
総括 （2024 年度に向けた課題等） （1）認定社会福祉士認証研修においては、Zoom 方式で実施。オンライン形式で実施する体制構築はできている。今後は対面とオンラインを状況によって使い分けることができるように体制整備を進めていく必要がある。また認定社会福祉士認証研修の開発に着手し会員の認定社会福祉士取得を支援していくこととする。 （2）2024 年度は独自研修の実施、さらに他の委員会と連携し研修を実施できる体制整備を行う。 （3）県民向け出前講座については、2024 年度も継続して実施。 新たなテーマの研修開発についても継続検討していくこととする。	

委員会名・事業チーム名：高齢者委員会

担当理事名：安田征司

2023年度事業計画	2023年度事業報告
認定社会福祉士認証研修 高齢分野専門研修会の開催	以下の通り開催した。 地域社会・多文化分野（分野共通）（家族支援） ～システム理論を用いた家族の見立てとアプローチ～ 期 日：2024 年 2 月 17 日（土） 2 月 18 日（日） （2 日間、1 日 6 時間）計 12 時間 場 所：エイムアテイン 講 師：1) 片岡靖子氏 久留米大学文学部 教授 2) 千葉晃央氏 京都光華女子大学健康科学部 医療福祉学科 3) 高鍋竜一氏 介護老人保健施設舞風台 社会福祉士 介護支援相談員 4) 岡田佳代氏（事例提供者） 社会福祉士 介護支援専門員 受講者：26 名
独自研修会の開催	以下の通り開催した。 多職種連携～つなぐ、つながる支援～ 日 時：2023 年 10 月 1 日（日）13:00～16:00 場 所：エイムアテイン 講 師：竹下太氏（誠愛リハビリテーション病院） 受講者：11 名
総括 （2024 年度に向けた課題等） クライエント（個人や家族）、もしくは環境面やそれぞれのライフステージに応じた支援やネットワークの形成（8050 問題やヤングケアラー等）にあたり、県士会の委員会同士の横断的な研修会を行えるように、取り組んでいき、継続した研修会の実施が必要と思われる。研修会を通じて、参加者が、同じ分野や他分野で働かれている方とのネットワーク形成にも努めていきたい。	

2023年度事業計画	2023年度事業報告
研修会の開催	① 独自研修 「カネミ油症について学び共に考える」 日 時：2023 年 10 月 8 日（日）14:00～16:00 場 所：クローバープラザ 受講者：2 名 ② 独自研修 「外国人支援について語り、一緒に考える」 日 時：2023 年 11 月 26 日（日）14:00～16:10 場 所：クローバープラザ 受講者：25 名 ③ 独自研修 「LGBTQ の基礎知識と課題について学び共に考える」 日 時：2024 年 2 月 3 日（土）14:00～16:10 場 所：Zoom 受講者：2 名
自殺予防の取組	・福岡大学病院、福岡市精神保健福祉センター等団体との連携→精神保健福祉センターと連携。心と法律の相談会へ委員会より派遣 ・自殺予防に関する活動や研修への協力→福岡市精神保健福祉センター主催の心と法律の相談会へ委員会より派遣。自殺予防に関する活動を行う。 ・心と法律の相談会の参加→委員会より 2 名派遣参加 2023 年 9 月 29 日（金）10:00～16:00 2024 年 3 月 8 日（金）10:00～16:00
情報収集及び連携	・地域司法連絡協議会へ参加し、多文化問題の把握及び他団体との連携を深める。→委員会より 1 名参加
総括 （2024 年度に向けた課題等） (1). 滞日外国人ソーシャルワーク研修開催の計画・認証研修申請、地域生活・多文化分野に係る研修会の開催・就労・社会参加、貧困・低所得と自立支援、地域開発・地域福祉活動、自殺問題、滞日外国人と多岐に亘り、複雑化多様化する現代社会において専門性を発揮すべく取り組んでいく。 (2). 自殺予防の取り組みとして、福岡大学病院、福岡市精神保健福祉センター等団体との連携自殺予防に関する活動や研修への協力、心と法律の相談会の参加を検討していく。	

2023年度事業計画	2023年度事業報告
福岡地方検察庁社会福祉アドバイザー派遣事業をとおして再犯防止、被害者と加害者・家族支援への取組の促進	①アドバイザー派遣実績（2023年1月～12月） ・登録者 14名 ・派遣数 43名 ②福岡地方検察庁との定期協議会 ・期 日：2023年11月2日（木） ・場 所：福岡地方検察庁7階会議室 ・協議事項：アドバイザー派遣及び入口支援等の現状について他 ③九州ブロック再犯防止シンポジウム ・期 日：2023年12月11日（月） ・場 所：福岡市少年科学館6階サイエンスホール
福岡地方検察庁・保護観察所・地域生活定着支援センター、地方公共団体弁護士等関係機関・団体等との連携促進	1 福岡県地域生活定着支援センター入り口支援ケース会議 ・第1回 2023年7月7日（金） ・第2回 2023年9月27日（水） ・第3回 2023年12月20日（水） ・第4回 2024年3月11日（月） ②福岡市障がい者地域生活支援協議会触法障がい者部会 ・第1回 2023年7月10日（月） ・第2回 2023年9月11日（月） ・第3回 2023年12月8日（金） ・第4回 2024年2月14日（水） ③弁護士会との新たな連携についての検討会 - 第1回 2023年12月17日（火）
再犯防止、司法と福祉の連携、普及啓発について研修会の開催	「リーガルソーシャルワーク研修」認証研修 期 日：2024年2月3日（土） 2月4日（日） 場 所：クローバープラザ 参加者：16名 認証研修の企画・申請準備 「更生保護支援コーディネーター養成研修（仮称）」 ※2024年4月8日申請済
総括 （2024年度に向けた課題等） 委員会として設置の承認を得て、1年間の活動であったが、それまでの個々別々に行っていたものを整理するよい機会となった。2024年度についても引き続き、状況課題の整理など行っていく。尚、今後は弁護士会並びに関係団体との連携を通してソーシャルワークの実践活動が推進できる体制の構築を進めていく。またその為に、刑事司法ソーシャルワークに関する活動への周知・啓発を行うと共に、刑事司法ソーシャルワーカーの人材育成及び地域ネットワークの構築のための質と量の担保の仕組みを構築していく。	

委員会名・事業チーム名：災害支援員会

担当理事名：木山淳一

2023年度事業計画	2023年度事業報告
災害福祉支援チーム（DWAT）のチーム員の推薦	認証研修修了者等の6名を推薦した。
認定社会福祉士認証研修の開催	「2023年度災害支援活動者養成研修」を開催した。 期 日：2024年 1月 6日（土） 1月 7日（日） 場 所：クローバープラザ 受講者：10名
九州・沖縄ブロック災害担当者会議への参加	期 日：2023年12月13日（水） 場 所：Zoom 参加者：1名
BCP策定に関する研修会（新規）	「地域と共に取り組むBCPについて」を開催した。 日 時：2023年 9月13日（水）13:30～15:00 場 所：Zoom 内 容：地域で取り組むBCP 講 師：Office SONOZAKI 代表 園崎秀司氏 受講者：23名
ブロック単位の研修会の開催	筑豊ブロックとの共催で以下の通り開催した。 期 日：2024年 3月24日（土） 場 所：イイヅカコミュニティセンター 受講者：10名 テーマ：災害が起こったら“社会福祉士”は何をしますか 講 師：福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター 藤本博昭氏 令和6年能登半島地震 IN 輪島 報告者：木山淳一
総括 （2024年度に向けた課題等） ○今年度初の試みとして、オンラインによる研修会を開催した。対象を相談事業所や地域包括支援センター、社会福祉協議会として、FAXによるダイレクト案内を行い、開催時間帯も業務として参加できるように平日の昼間とした。 ○来年度に向けた課題としては、認証研修の参加者を増やすことが必要であり、そのため、認証を必要とせず、1日のみ、あるいは科目のみの参加を可能とする仕組みを考えたい。	

委員会名・事業チーム名：独立型社会福祉士支援委員会

担当理事名：安田征司

2023年度事業計画	2023年度事業報告
独自研修会 地域とソーシャルワークにおけるわたしたちの役割について	日 時：2023年10月22日（日）13：00～16：00 場 所：エイムアテイン 講 義：独立型社会福祉士の活躍とソーシャルワーカーのスーパービジョン 講 師：松澤秀樹氏（福岡県社会福祉士会 日本独立型支援委員会委員 社会福祉士事務所まほろば） 実践報告：佐伯憲子氏 萩原洋子氏 シンポジウム：佐伯憲子氏 萩原洋子氏 進行：松澤秀樹氏 参加者：10名
独立型社会福祉士更新研修 独立している社会福祉士に聞いてみよう	日 時：2024年2月10日（土）13：00～17：00 基調講演：独立型社会福祉士の倫理と経営～独立ソーシャルワーカーの両輪について」 講師：横田一也氏 （社会福祉士事務所カラーサ 株式会社カラーサ代表取締役） 実践報告：「独立している社会福祉士に聞いてみよう」 講師：九重路秀之介氏 （あかつき社会福祉士事務所） 林田久美氏 （一般社団法人野に咲く花のように代表理事、株式会社 Stay gold 代表取締役） シンポジウム：「地域共生社会に求められる独立型社会福祉士のありかた」 シンポジスト：横田一也氏 九重路秀之介氏 林田久美氏 コーディネーター：松澤秀樹氏 （福岡県社会福祉士会 日本独立型支援委員会委員 社会福祉士事務所まほろば） 場 所：Zoom 受講者：16名
総括 （2024年度に向けた課題等） 次年度も、独自研修会と独立型社会福祉士名簿登録更新研修を兼ねた研修会の実施を行う。 今後、独立型社会福祉士の支援や、関心のある方へ発信を行い、日本社会福祉士会、九州・沖縄ブロックをはじめ、近隣の県士会とのネットワーク形成を進めて行く予定。	

2023 年度事業計画	2023 年度事業報告
福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 基礎研修の開催	【前期】福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修 実施体制：全日程オンライン研修にて実施。配信会場はリファレンス大博多ビル 11F 日 程： 1 日目(e-ラーニング講義) 第1回：5月 3日～5月 21日 第2回：6月 21日～7月 9日 2 日目(講義・演習) 全8回開催(内容は同じ) 第1回：6月 8日(木) 第2回：6月 9日(金) 第3回：7月 13日(木) 第4回：7月 14日(金) 第5回：8月 8日(火) 第6回：8月 9日(水) 第7回：9月 7日(木) 第8回：9月 8日(金) 内 容：サービス提供の基本的な考え方／サービス提供のプロセス／サービス等利用計画と個別支援計画の関係／サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント／個別支援計画作成のポイントと作成手順／個別支援計画の作成／個別支援計画の実施状況の把握（モニタリング）及び記録方法 【後期】福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修 実施体制：全日程オンライン研修にて実施。配信会場はリファレンス大博多ビル 11F 日 程： 1 日目(e-ラーニング講義) 第1回：9月 1日～9月 18日 第2回：10月 18日～11月 5日 2 日目(講義・演習) 全8回開催(内容は同じ) 第1回：10月 12日(木) 第2回：10月 13日(金) 第3回：11月 9日(木) 第4回：11月 10日(金) 第5回：12月 7日(木) 第6回：12月 8日(金) 第7回：1月 11日(木) 第8回：1月 12日(金) 内 容：サービス提供の基本的な考え方／サービス提供のプロセス／サービス等利用計画と個別支援計画の関係／サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント／個別支援計画作成のポイントと作成手順／個別支援計画の作成／個別支援計画の実施状況の把握（モニタリング）及び記録方法 【修了者】 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者(前期後期含め)：718名

福岡県サービス管理責任者・児童発達
支援管理責任者 実践研修の開催

【前期】福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理
責任者実践研修

実施体制：全日程オンライン研修にて実施。配信会場は
リファレンス大博多ビル 11F

事前動画配信(e-ラーニング)

第1回：5月 3日～5月21日

第2回：6月21日～7月 9日

1日目、2日目(講義・演習) 全8回開催(内容は同じ)

A日程：6月21日(水)

6月22日(木)

B日程：6月23日(金)

6月24日(土)

C日程：7月27日(木)

7月28日(金)

D日程：7月29日(土)

7月30日(日)

E日程：8月24日(木)

8月25日(金)

F日程：8月26日(土)

8月27日(日)

G日程：9月21日(木)

9月22日(金)

H日程：9月23日(土)

9月24日(日)

【後期】福岡県サービス管理責任者・児童発達支援管理
責任者実践研修

実施体制：全日程オンライン研修にて実施。配信会場は
リファレンス大博多ビル 11F

事前動画配信(e-ラーニング)

第1回：9月27日～10月15日

第2回：11月29日～12月17日

第3回：1月19日～2月 5日

1日目、2日目(講義・演習) 全8回開催(内容は同じ)

A日程：11月23日(木)

11月24日(金)

B日程：11月25日(土)

11月26日(日)

C日程：12月21日(木)

12月22日(金)

D日程：12月23日(土)

12月24日(日)

E日程：1月25日(木)

1月26日(金)

F日程：1月27日(土)

1月28日(日)

G日程：2月22日(木)

2月23日(金)

H日程：2月24日(土)

2月25日(日)

X日程：3月 7日(木)

3月 8日(金)

	Y 日程： 3 月 9 日（土） 3 月 10 日（日） Z 日程： 3 月 15 日（金） 3 月 16 日（土） ※福岡県より要請があり追加募集を実施した。2023 年 7 月から実践研修受講要件が一部緩和されたため。X、Y、Z の 3 日程を追加した。 【内容】 障害福祉の動向／個別支援会の運営方法／サービス担当者会議におけるサービス管理責任者の役割／自立支援協議会を活用した地域課題の解決に向けた取組／サービス提供に関する講義及び演習（モニタリングの方法、個別支援会議の運営方法）／人材育成の手法に関する講義及び演習（サービス提供職員への助言・指導について／OJT としての事例検討会の進め方）／多職種及び地域連携に関する講義及び演習（サービス担当者会議等におけるサービス管理責任者等の役割、（自立支援）協議会を活用した地域課題の解決に向けた取り組み、サービス担当者会議と（自立支援）協議会の活用についてのまとめ 【修了者】 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者（前期後期含め）：727 名
人材養成研修	人材養成研修 期 日：2023 年 9 月 19 日（火） 2024 年 2 月 6 日（火） 2 月 7 日（水） 実施体制：オンライン研修にて実施。 【内容】 第 1 回（動画配信）： ①サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修におけるティーチングとは ②サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修におけるファシリテーションとは ③サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修におけるスーパービジョンとは 第 2 回（オンライン研修） サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修におけるグループコーディネート実践 【修了者】16 名
総括 （2024 年度に向けた課題等） 基礎研修については、経験の浅い受講生でも理解できるような内容の精査が引き続き必要となる。集合研修が再開するため、オンライン研修を想定していた研修プログラムを見直す必要がある。 実践研修については、基礎研修修了後の OJT 期間について、これまで以上に制度の周知が必要になる。 人材養成研修については、今後も基礎・実践を担えるグループコーディネーターの確保・育成が急務となっているが、理事会ではその確保の方法や報酬額について他の委員会と足並みを揃えるようにしたほうがよいのではないかと意見が根強くあるものの、折衷案はまだない。	

2023 年度事業計画	2023 年度事業報告
福岡県相談支援初任者研修の開催	<u>福岡県相談支援従事者初任者研修（1 日目、2 日目）</u> 期 日：2023 年 5 月 1 日～5 月 21 日 場 所：e-ラーニングによる遠隔化講義 内 容：講義「障害者総合支援法等の概要」「ケアマネジメント概論」「相談支援の基本姿勢」他 <u>福岡県相談支援従事者初任者研修</u> <u>（3 日目、4 日目、5 日目、6 日目、7 日目）</u> <u>第 1 回（A 日程）</u> 期 日：2023 年 6 月 13 日（火） 6 月 14 日（水） 7 月 12 日（水） 8 月 30 日（日） 8 月 31 日（木） 場 所：Zoom 内 容：講義「ケアマネジメントの実践」、「協議会の役割と活用」 演習（Ⅰ）、演習（Ⅱ）、その他 <u>福岡県相談支援従事者初任者研修</u> <u>（3 日目、4 日目、5 日目、6 日目、7 日目）</u> <u>第 2 回（B 日程）</u> 期 日：2023 年 7 月 19 日（水） 7 月 20 日（木） 8 月 18 日（金） 9 月 27 日（水） 9 月 28 日（木） 場 所：Zoom 内 容：講義「ケアマネジメントの実践」、「協議会の役割と活用」 演習（Ⅰ）、演習（Ⅱ）、その他 修了認定者数 710 名 講義のみコース……606 名 全日程・演習のみコース……104 名
総括 （2024 年度に向けた課題等） 研修プログラム改正によって7日間になった研修実施を踏まえて、今年度さらにブラッシュアップしていこうというところで研修形態が Zoom によるオンライン開催になるなど、準備に時間がかかる状況となった。講師や GFT の皆さんが滞りなく資料を作成されたことや、頻繁なミーティングやチャットでの交流によって円滑な研修運営ができた。 2024 年度は集合研修に戻すこと、集合研修に伴い受講定員を増やすように福岡県より要請がある為、ファシリテーター確保や育成にも注力していきたい。同事業を展開している保健福祉振興財団とも連携を取りながら研修理解度が深まるように事業運営を行う。	

委員会名・事業チーム名：強度行動障がい支援者養成研修事業推進チーム 担当理事名：芳川龍太

2023年度事業計画	2023年度事業報告
強度行動障がい支援者養成研修に関する研修会開催	強度行動障がい支援者養成研修開催 期 日： 1 回目（計画の通り実施済み） 基礎研修 2023 年 9 月 25 日（月） 9 月 26 日（火） 29 名修了 実践研修 2023 年 10 月 2 日（月） 10 月 3 日（火） 29 名修了 2 回目 基礎研修 2024 年 2 月 19 日（月） 2 月 20 日（火） 31 名修了 実践研修 2024 年 2 月 29 日（木） 3 月 1 日（金） 31 名修了 場 所：Zoom 定 員：30 名
強度行動障がい支援者養成研修に関する団体との協力・連携	のぞみの園主催 指導者研修への参加 日 程：2023 年 5 月（4 日間） 場 所：Zoom 参加者：1 名
強度行動障がいのある者への支援の研究、実践報告の場の提供	強度行動障がい支援者養成研修ステップアップ研修の開催（新規研修） 日 程：2024 年 3 月 15 日（金）10:00～12:30 場 所：Zoom 受講者：20 名 研修開催にあたりチームメンバーを事例提供者へ派遣 約半年を通して実践した支援の実践報告を実施
総括 （2024 年度に向けた課題等） 事業計画の通り指定研修を 2 回実施、定員以上の申込があった。徐々に申込者数の減少もみられるため、研修開催の周知に今後工夫して取り組んでいきたい。（現状は関係機関への FAX 送信とホームページでの公開のみ）コロナ禍以降、オンライン研修で開催してきたが、次年度は集合研修の開催を予定している。受講者と対面で研修を開催することでより有意義な時間にできるよう取り組んでいきたい。 新規企画として開催したステップアップ研修も、本会の開催した強度行動障がい支援者養成研修の修了者を中心に予想以上の申込があった。研修内容の評価・見直しを行いつつ、次年度もさらに魅力的な研修として開催できるよう取り組んでいく。	

2023年度事業計画	2023年度事業報告
(1) 養護者による高齢者虐待 対応市町村職員等初任者研修の 受託	(1) 市町村及び地域包括支援センター職員を対象とし た養護者による虐待対応初任者研修 ①期 日：2023年 5月25日（木） 5月31日（水）2日間 ②テーマ：養護者による虐待対応の初動期対応 ③場 所：Zoom ④受講者：123名
(2) 養護者による高齢者虐待対応管理 者・現任者研修の受託	(2) 市町村職員及び地域包括支援センターを対象とした 養護者虐待対応における管理者・現任者研修 ①期 日：2023年10月31日（火） 11月 8日（水） 2日間 ②テーマ：養護者による虐待対応の多職種連携 ③場 所：Zoom ④参加費：無料（委託費） ⑤受講者：1日目 62名 2日目 55名
(3) 福岡県市町村職員等に対する虐待 対応力向上研修（養介護施設編）の 受託	(3) 市町村職員等に対して養介護施設従事者等による高 齢者虐待対応力向上を目的とした研修 ①期 日：2023年 9月 4日（月） ②テーマ：養介護施設従事者等による虐待の事実確認調 査、改善計画までの一連の流れ ③場 所：Zoom ④参加費：無料（委託費） ⑤受講者：56名
(4) 久留米市高齢者虐待防止研修の受 託	(4) 久留米市高齢者虐待防止研修の受託 ①期 日：2024年 2月 9日（金） （オンライン及び録画研修） ②テーマ：養介護施設従事者の虐待防止研修 ※録画方法 事務局による講義の録画作成
総括 （2024年度に向けた課題等） (1) 地域包括支援センターは福岡県内において委託化が続いている。行政職員も異動により新任職員が毎年多数着任するため、虐待防止という高齢者の権利擁護を担う市町村・地域包括支援センターの従事者が、コンプライアンスに基づいて組織的な対応ができるように、基礎研修を充実したカリキュラムで継続する。 (2) 2023年度は、昨年に引き続きオンラインで研修を行った。2024年度は集合研修で、3つの研修会を実施していく予定である。 (3) 介護保険改正により「養介護施設従事者等による虐待防止」の強化がはかられ、事業所の研修必須化が明記されたこともあり、本会としては施設従事者対象の虐待防止研修の必要性を、継続して県へ提案していく所存である。養介護施設従事者による虐待を現場で予防できる仕組みづくりから貢献していきたい。	

2023年度事業計画	2023年度事業報告
(1) 福岡県障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修	福岡県障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修の開催 【行政・虐待防止センターコース】(2日間) ①期 日：2023年10月17日(火) 11月7日(火) ②委託元：福岡県 ③場 所：エイムアテイン、クローバープラザ ④受講者：養護者による虐待 25名 施設従事者による虐待 21名 【障がい福祉サービス事業所管理者等コース】(3日間) ①日 程：2023年12月13日(水) 2024年1月16日(火) 2月26日(月) ②委託元：福岡県 ③場 所：クローバープラザ ④受講者：管理者コース 130名 虐待防止マネジャー等 130名
(2) 障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修への派遣	障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修(国研修)への派遣 ①期 日：2023年9月19日(火) 9月20日(水) 9月21日(木) ②場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター ③派遣人数：2名(2コース各1名) ※(1)の研修に参画する会員が受講した
総括 (2024年度に向けた課題等) (1) 福岡県障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修について 行政等コースは、養護者及び施設従事者による虐待に対する行政における対応を講義・演習を用いて集合研修で行った。今後も研修プログラムの充実を図っていきたい。 管理者等コースにおいては行政等コースとは別の日程で開催した。2024年度もこの形で実施していく予定ではある。受講対象者が新規開設法人や小規模の法人の職員等に広がりを見せるかなか、研修内容の再考の検討を研修スタッフで感じている所である。 また行政等コースは、行政等の現任者の会員研修協力者が限られているため、今後スタッフの補充を必要としている。 (2) 来年度は集合研修で行うため、講師陣と対応可能なスタッフ等の検討が必要と考えられる。	

委員会名・事業チーム名：福祉関連資格取得支援事業推進チーム

担当理事名：勝野憲司

2023年度事業計画	2023年度事業報告
社会福祉士受験対策講座の開催	予定通り全8回、講義形式で講座を開催できた。 ① 期 日 1日目 8月 6日（日）開講 2日目 8月11日（祝） 3日目 8月20日（日） 4日目 8月27日（日） 5日目 9月 3日（日） 6日目 9月10日（日） 7日目 9月17日（日） 8日目 9月24日（日） ② 場 所：クローバープラザ ③ 受講者：19名 「国家試験直前最終点検講座」を開催した。 ① 期 日：2024年 1月 7日（日） ② 場 所：クローバープラザ ③ 受講者：20名
社会福祉士国家試験全国統一模擬試験の実施	予定通り開催した。 ① 期 日：2023年10月22日（日） ② 場 所：クローバープラザ ③ 受験者：30名
その他	受験対策講座及び全国統一模試受験者へ国家試験合否の追跡調査を行った。（合格率82.6%）
総括 （2024年度に向けた課題等） 2023年度も定員設定を約半数にする等新型コロナ感染防止対策を講じ、無事開催することができた。また「国家試験直前最終点検講座」も開催した。国試合否追跡調査結果から「最後の追い込みができ、おかげで合格できた」との喜びの声が多く寄せられた。合否追跡調査では、過去最高の合格率を確認することができた。 全国統一模擬試験についても、予定通り開催することができたが、前回(28名)同様受験者数が伸び悩んでいる。なお 2024年度から、模擬試験は新カリキュラムに基づく新試験科目と時間割で行う。	

委員会名・事業チーム名：創立30周年記念事業実行委員会

担当理事名：芳川龍太

2023年度事業計画	2023年度事業報告
30周年記念式典・交流会事業	会員、関係機関・者を招き、交流会を開催した。 「創立30周年記念式典・交流会」 日 時：2023年11月19日（日） 15:00～19:00 記念式典（記念講演含む） 15:00～16:30 交流会 19:00～21:00 場 所：八仙閣本店（式典3階・交流会5階） 参加者：記念式典 114名 交流会 100名 その他：記念講演 宗教法人大泉寺住職 小島健布氏 交流会余興 サンドアートクリエイター・砂絵アーティストMASA氏

歴代貢献者表彰事業	これまでの本会の歩みを振り返り、歴代会長を表彰した。 記念式典にて歴代貢献者表彰式を執り行い、19 名の方々を表彰し記念品を授与した。 ○特別表彰 3 名 創立 20 周年以降の歴代会長 ○永年会員表彰 16 名 本会発足年度からの入会者
記念誌編纂・発行事業	これまでの本会の歩みを振り返る記念誌を編纂・発行した。 2023 年 11 月 19 日 「創立 30 周年記念誌」2,100 部を発行した 会員約 1,900 名へ発送、その他記念式典出席者等関係者へも配布した。
社会福祉士啓発事業	新聞等の啓発広告を活用し、社会福祉士の機能や役割を啓発するため、創立 30 周年記念式典・交流会当日に西日本新聞テレビステージ欄に広告記事を掲載した。
総括 （2024 年度に向けた課題等） (1). 2023 年 1 月に本委員会を発足し（理事 3 名・会員 10 名）、事務局担当者を交え月に約 2 回のペースで委員会を開催した。 (2). 企画書で下記 5 つのテーマを掲げ、その実現に向けて記念式典及び交流会の企画・運営、記念誌の編纂・発行、新聞広告による啓発活動に取り組んだ。 ・これまでの 30 年の歩みを振り返り、これから目指すべき活動を考える機会にする。 ・社会福祉士が活動する上で関係する（した）機関・者を招き、連携に関する確認の場にする。 ・これまで本会の運営に貢献してきた者を表彰する機会にする。 ・社会福祉士の機能と役割を広く啓発する機会にする。 ・会員同士の新しいつながりを創出する機会にする。 (3). 創立 30 周年記念式典・交流会について 一人でも多くの会員に参加してもらうべく、記念講演の内容や交流会での余興などについて委員会で繰り返し協議を重ねた。目標参加者数には届かなかったが、開催要項の内容やメール等を活用した周知により、100 名以上の規模で記念式典を開催することができたと考えている。 (4). 記念誌について 会員と共に作ることを目指し、会員投稿やクイズ企画、ふくおか社会福祉士通信で掲載が続いている会員リレー投稿の軌跡を辿るなどの要素を取り入れた。冊子は 50 ページ程度のものとなったが、各ページの進捗管理や文章チェックなど、膨大な作業となり苦慮した。特に歴代役員を掲載したページで複数の記載漏れが見つかり、会員の皆様にご迷惑をおかけしてしまう結果となってしまった。これを踏まえ、委員会として再発防止を図るため、10 年後の実行委員会へ向けて本事業の評価や反省を確実に引き継ぐための資料を作成した。 (5). 全体を通して 実行委員会メンバーや事務局職員のご協力により、記念式典及び交流会を円滑かつ無事に開催することができた。当日参加いただいた会員の皆様からは、貴重なご評価をいただき、実行委員としての達成感を強く感じることができた。	

【 収益事業等／その他の事業（相互扶助事業） 】

1. ブロック活動等会員活動の支援（他1）

委員会名・事業チーム名：福岡ブロック

担当理事名：向野公浩

2023年度事業計画	2023年度事業報告
研修会の開催	(1) 福岡ブロック研修会 日 時：2024 年 1 月 27 日（土）13:00～17:00 場 所：エイムアテイン 内 容：精神障害者の地域生活を支える仕組み ～事例で学ぶ精神疾患の対応と連携～ 受講者：28 名 (2) 福岡ブロックミニ研修会 日 時：2024 年 3 月 2 日（土）14:30～16:30 場 所：クローバープラザ 内 容：なんでも聞いてみよう ～人生のキャリアとソーシャルワーク～ 受講者：7 名
新人オリエンテーションの開催	新人オリエンテーション 日 時：2023 年 7 月 8 日（土）13:40～16:30 場 所：エイムアテイン 受講者：25 名
施設見学の開催	施設見学 【注】新型コロナウイルス感染拡大防止にて、適当な見 学先が見つからず開催を中止した。
総括 （2024 年度に向けた課題等） (1) 今年度は、毎年恒例のレジェンドシリーズ（ミニ研修会）と障害福祉分野の研修会を開催し、さらに主任ケアマネ更新受講要件の該当研修とすることで、参加者増に取り組んだ。レジェンドシリーズの参加者は少なかったが、先輩社会福祉士の話や意見交換ができる貴重な機会となっているため、参加者が増える取り組みを模索しながら取り組んでいく必要がある。 (2) 新人オリエンテーションでは、25名の参加があり、多くの新入会者が会の活動に関心をもってくれた。引き続き、オリエンテーションを開催することで、本会会員意識を高めるとともに、福岡地区での活動を通じて会員同士の繋がりを持つ機会を創出していく。 (3) 2024 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった施設見学を開催することで、会員同士の交流を図る。	

委員会名・事業チーム名：北九州ブロック

担当理事名：安田征司

2023年度事業計画	2023年度事業報告
北九州ブロック新人オリエンテーション・研修会の開催	以下の通り研修会を開催した。 期 日：2023年 7月17日（月） 場 所：西南女学院大学 内 容 ＜新人オリエンテーション＞ 基礎研修・生涯研修制度について 災害支援委員会の活動について ＜研修会＞ ～先輩社会福祉士からの実践報告会～ 報告者 西中川元秀氏 （有料老人ホーム小倉つばさ館 施設長） 神崎己枝氏 （北九州医療刑務所 社会福祉士） 曾我部さおり氏 （地域包括支援センター門司3） 道上真鈴氏 （北九州成年後見センター） コーディネーター 今村浩司氏 （西南女学院大学 教授） 参加者：33名（県土会会員） 22名（学生）
第7回北九州フォーラム	以下の通り開催した。 日 時：2024年 2月17日（土）10：00～17：00 テーマ：追い風も、向かい風もともに 場 所：西南女学院大学 受講者：110名
総括 （2024年度に向けた課題等） 新人オリエンテーションでは、新人会員の獲得や今後社会福祉士（ソーシャルワーカー）を目指す方々を対象に、会としての取り組みや魅力等を研修会等の運営を行っていく。 また、会員や非会員等の方にも、研修会を通じ会の取り組みや、自己研鑽等行える企画をたて、ネットワークの構築にもつながっていけるように努めていく。	

2023年度事業計画	2023年度事業報告
研修会の開催	(1) 新入会者オリエンテーション ①日 時：2023年 7月 8日（土）14：00～17：00 ②場 所：イイズカコミュニティセンター ③テーマ：筑豊ブロックの紹介 ④内 容：筑豊ブロック活動内容などの紹介 グループに分かれての意見交換 ⑤受講者：6名 (2) 第1回筑豊ブロックミニ研修会 ①日 時：2023年12月 9日（土）14：30～17：00 ②場 所：イイズカコミュニティセンター ③テーマ：専門職 GP ROUND1 in IIZUKA ④内 容：分科会形式（グループ別）にテーマを定め グループを移動しながら意見交換 ⑤受講者：4名 (3) 第5回筑豊地区ソーシャルワーカー5団体合同研修会 ①日 時：2024年 2月 24日（土）14：00～17：00 ②場 所：飯塚病院 教育研修棟6階 百年ホール ③テーマ：インタープロフェッショナルワークの基本 ～事例を通じて連携と協働のポイントを考える～ ④内 容：インタープロフェッショナルワークをテーマと した講義と事例に基づく意見交換 ⑤講師・助言者及び事例提供者： ・講師/助言者 河野高志氏（福岡県立大学） ・事例提供者 協元秀和氏（福岡県医療ソーシャルワーカー協会） ⑥受講者：34名
総括 （2024年度に向けた課題等） (1) 新入会者オリエンテーション・ミニ研修会は、内容としては好評を得たが、参加者数としては伸び悩んだ。参加者が増える工夫とともに会員相互のつながりを深め組織としてのすそ野が広がるようにしたい。また、このためには今後は地域貢献（ソーシャルアクション）なども必要になると考える。 (2) 5団体合同研修会については、各団体のつながりが企画段階から深まっていることが効果として考えられる。このような5団体合同の研修会は、筑豊という地域特性を活かした事業ともいえ、団体属性が異なっても地域でつながりをもつきっかけとなる研修会を開催することは、長い目でみれば会員増加にもつながるものであり、継続することが大切と考える。	

委員会名・事業チーム名：筑後ブロック

担当理事名：原田 剛

2023年度事業計画	2023年度事業報告
筑後ブロック主催の研修会の開催	
(1) 新入会員オリエンテーション	①新入会員オリエンテーション 日 時：2023 年 7 月 15 日（土）14:00～17:00 場 所：久留米市市民活動センターみんくる 内 容：筑後ブロック新規会員オリエンテーション 受講者：13 名
(2) ブロック独自の研修	②筑後ブロック研修（第 1 回） 日 時：2023 年 12 月 16 日（土）14:00～17:00 場 所：久留米市市民活動センターみんくる 内 容：ソーシャルワーク理論と関連技法 受講者：13 名
(3) ブロック独自の研修	③筑後ブロック研修（第 2 回） 日 時：2024 年 3 月 2 日（土）14:00～17:00 場 所：久留米市市民活動センターみんくる 内 容：事例検討会 受講者：15 名
総括 （2024 年度に向けた課題等） (1) ブロックの独自性を活かし研修の企画立案を行い、会員のスキルアップを支援すると共に研修を通じて非会員の入会促進に繋げていく。 (2) 筑後ブロック会員の連携強化、及び他職種との連携強化の為、情報交換会や懇親会等を開催し筑後ブロックの活動を推進していく。 (3) 中長期的な視点としてブロックの支部化を視野に入れ幹事会で協議検討を継続していく。	

2. 日本社会福祉士会への支援・連携（他2）

日本社士会支援

2023年度事業計画	2023年度事業報告
年会費の支弁	本会会員ひとり当たりの負担金 5 千円に会員数を乗じた額を日本社会福祉士会へ納入。
新入会者経費の支弁	会員証の発行、会員バッジ、生涯研修手帳等新入会者への送付手続きを日本社会福祉士会に委託するため、その負担金として、ひとり当たり 1,000 円を日本社会福祉士会へ納入。
綱紀案件負担金の支弁	綱紀案件発生時に日本社会福祉士会にその対応を委託するため、それに伴う多額の経費負担の一部を全国県士会がそれぞれ負担。 (2023 年度負担金＝2023 年 3 月 31 日時点の会員数×200 円)
日本社会福祉士会会員管理システム管理費の支弁	会員管理システムのクライアント証明書発行手数料の負担 (手数料：約 11 千円／年)
総括 （2024 年度に向けた課題等） すべて計画通り実施した。2024 年度も上記同様実施する。	

【 法人運営事業 】

2023年度事業計画	2023年度事業報告
社員総会の開催 ①総会記念講演会の開催 2023年 6月24日(土) am ②第27回定時社員総会の開催 2023年 6月24日(土) pm	社員総会の開催 ①総会記念講演会の開催 2023年 6月24日(土) am ②第27回定時社員総会の開催 2023年 6月24日(土) pm
理事会の開催（全8回） ①第1回 2023年 4月16日(日) ②第2回 5月21日(日) ③臨時 7月 2日(日) ④第3回 9月10日(日) ⑤第4回 10月 8日(日) ⑥第5回 12月 3日(日) ⑦第6回 2024年 1月28日(日) ⑧第7回 3月17日(日)	理事会の開催（全8回） ①第1回 2023年 4月16日(日) ②第2回 5月21日(日) ③臨時 6月29日(日) ④第3回 9月10日(日) ⑤第4回 10月 8日(日) ⑥第5回 12月 3日(日) ⑦第6回 2024年 1月21日(日) ⑧第7回 3月17日(日)
組織強化 （1）入会促進策の実施 ①30歳以下若年層入会者の年会費減免実施 ②入会キャンペーン ③入会者紹介キャンペーン ④次年度先行入会受付キャンペーン ⑤会員継続感謝キャンペーン ⑥退会抑止策の検討 ⑦準会員入会促進 （2）役職員研修の実施 ①役職員研修会（新任理事、職員対象） ②公益法人会計セミナー、年末調整セミナー等への参加 （3）福岡県社会福祉士会創立30周年式典の開催 福岡県社会福祉士会 30周年記念式典の企画・開催	組織強化 （1）入会促進策の実施 2023年度に実施する、退会抑止と入会促進を目的としたキャンペーン7種類を会員へ告知し、会員への意識づけを図った。 ①若手入会促進キャンペーン ②シニア入会大歓迎キャンペーン ③秋得入会キャンペーン ④永年会員特別感謝キャンペーン ⑤入会3年継続キャンペーン ⑥先得キャンペーン ⑦会員継続感謝キャンペーン ⑧準会員入会促進 （2）役職員研修の実施 ①役職員研修会（新任理事、職員対象） ②公益法人会計セミナー、年末調整セミナー参加 （3）福岡県社会福祉士会創立30周年式典の開催 期 日：2023年11月19日(日) 場 所：八仙閣本店（博多区博多駅東2-7-27）
総括 （2024年度に向けた課題等） 正会員の入会者数は、前年度120人に対し13人増の133人となった。入会促進キャンペーンの目的・目標は達成できた。若手入会促進キャンペーンに関しては、30歳未満の入会者数が前年度10人に対し11人増の21人という結果となり、こちらもキャンペーンの効果が認められた。 一方、退会者数については、前年度105人に対し25人減の80人で着地した。退会抑止と入会促進を同時並行した取組こそが組織率の維持向上にとって重要な要素といえる。 2024年度も、今回の効果を踏まえ、さらに同様の入会促進キャンペーンを充実させていく。 2024年度は理事の一斉改選、及び一部監事の改選を予定しており、役員の変更登記等、万端の準備で対応していく。	

以上

令和 6 年 6 月 2 3 日

前事業年度の事業報告に関する附属明細書

公益社団法人福岡県社会福祉士会
代表理事 高田 裕矢

前事業年度（令和 5 年度）の事業報告については、特に補足する重要な事項ありません。

以上